

2025年度

授 業 要 項

科 目	生 物 学	学科名	はりきゅう	履修年次	1 年次
		教授法	講義	単位数コマ	5 単位 (38 コマ)
教 員	小林 恒之	領域	基礎	実務経験	大学教員
教科書	志村、岡、山田編 栄養科学イラストレイテッド「解剖生理学」 羊土社				
参考書	柔整、はりきゅうでの生理学、解剖学の教科書				
成績評価					
評価基準	学則に準じる。				
到達目標	解剖学、生理学の基礎重点事項を身につける。				
留意点	解剖学、生理学を丸暗記科目と誤解しないように。				
授業外に必要な学習内容	授業の内容をそれぞれの正規教科書で復習する。				
授業内容	解剖学と生理学は医学、医療を学ぶ上で極めて重要な基礎科目であるが、学生にとっては苦手科目でもある。この講義では解剖学と生理学の基礎重点事項を全般に解説していく。必要があれば中学高校の生物、化学、物理の復習を行いつつ、解剖学と生理学を関連づけながら講義を行う。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	序論（この講義の目的）	
2	細胞と組織①（細胞・組織の構成と機能）	
3	細胞と組織②（細胞小器官の構造と機能）	
4	細胞と組織③（生体膜の構造と機能）	
5	細胞と組織④（人体組織の構造と機能）	
6	神経系①（神経系の構成）	
7	神経系②（中枢神経系）	
8	神経系③（末梢神経系）	
9	神経系④（ニューロンの形態と機能）	
10	神経系⑤（感覚神経）	
11	神経系⑥（運動神経と自律神経）	
12	皮膚組織と体温調節	
13	感覚器系①（感覚器の構成と一般的性質）	
14	感覚器系②（味覚と嗅覚）	

15	感覚器系③（視覚）	
16	感覚器系④（聴覚と平衡感覚）	
17	内分泌系①（内分泌系の構成とホルモン分泌の機序）	
18	内分泌系②（視床下部、下垂体、甲状腺、カルシウム代謝調節とホルモン）	
19	内分泌系③（副腎、膵、性腺とホルモン）	
20	生殖器系（生殖器の構成と機能）	
21	骨格系（骨格系の構成、機能、成長）	
22	筋肉系と運動機能①（筋肉系の構成と機能）	
23	筋肉系と運動機能②（骨格筋の構造と機能）	
24	筋肉系と運動機能③（赤筋と白筋）	
25	循環器系①（循環器系の構成と機能）	
26	循環器系②（心臓の構造と機能）	
27	循環器系③（血管、血圧、循環系）	
28	呼吸器系①（内呼吸と外呼吸）	
29	呼吸器系②（肺と胸郭の構造と機能）	
30	呼吸器系③（ガス交換と血液ガス）	
31	腎・尿路系①（腎・尿路系の構成と機能）	
32	腎・尿路系②（体液の調節）	
33	消化器系①（消化器系の構成と機能）	
34	消化器系②（嚥下、咀嚼、消化管）	
35	消化器系③（消化と吸収）	
36	血液・リンパ・凝固系①（血液・リンパ・凝固系の構成と機能）	
37	血液・リンパ・凝固系②（血液の成分と機能）	
38	血液・リンパ・凝固系③（血漿タンパク質と血液凝固）	

2025年度

授 業 要 項

科 目	研究法概論	学科名	はりきゅう	履修年次	2 年次
		教授法	講義	単位数コマ	5 単位 (38 コマ)
教 員	小林 恒之	領域	基礎	実務経験	大学教員
教科書	特になし				
参考書	特になし				
成績評価	グループワークや個人による授業内での発表、レポート				
評価基準	学則に準じる				
到達目標	科学的手法を学び、自分の考えを客観的事実に論理的に伝える方法を習得する。				
留意点	学生の積極的参加を望む。				
授業外に必要な学習内容	授業時間外での学習は最小限となるよう出来る限り配慮するが、学生自身による論文作成等は授業外の時間に行う場合がある。				
授業内容	まず最初に研究を行う上でその基礎となる文献の検索、読み方を習得を目指す。そして、データ解析の基礎(統計法)を学習した上で、実験実習によりデータを取得しその解析を行う。解析結果をパワーポイントを用いてプレゼンテーションし、最終的にレポートまたは論文を作成する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	
2	論文の検索の実習	
3	論文の読み方	
4	パワーポイントの使用方法①	
5	パワーポイントの使用方法②	
6	グループ単位で論文の内容を要約①	
7	グループ単位で論文の内容を要約②	
8	論文の内容についてパワーポイントでスライド作成①	
9	論文の内容についてパワーポイントでスライド作成②	
10	スライド発表と講評	
11	統計法① 確率の基礎	
12	統計法② 確率の応用	
13	統計法③ 確率分布、正規分布	

14	統計法④ 平均値、標準偏差	
15	統計法⑤ 仮説の検定（統計検定の論理）	
16	統計法⑥ 仮説の検定（帰無仮説）	
17	統計法⑦ 仮説の検定（平均値の差の検定）	
18	統計法⑧ 相関	
19	統計法⑨ 回帰	
20	研究倫理概説	
21	研究倫理（被験者集めと同署）	
22	実習によるデータ収集①	
23	実習によるデータ収集②	
24	実習によるデータ収集③	
25	実習結果のデータ解析①	
26	実習結果のデータ解析②	
27	実習結果のスライド作成①	
28	実習結果のスライド作成②	
29	予備発表会と講評①	
30	予備発表会と講評②	
31	予備発表の修正作業	
32	本発表会（質疑応答を含む）	
33	研究発表の内容を論文化①	
34	研究発表の内容を論文化②	
35	研究発表の内容を論文化③	
36	論文の添削、修正とその説明①	
37	論文の添削、修正とその説明②	
38	論文提出とまとめ	

〈2025年度〉

授 業 要 項

科 目	国語	学科名	はりきゅう	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	4単位(30コマ)
教 員	上條 睦美	領域	基礎	実務経験	中学校教諭
教科書	意味から学ぶ常用漢字(第一学習社)・超読解力ドリル(善方 威 著 かんぼう出版)				
参考書					
成績評価	試験(2回/年)・毎回の演習テスト・提出物・授業態度などを総合的に評価する。				
評価基準	年間出席の2/3以上の出席と定期試験60点以上を成績の下限とする。				
到達目標	医療現場で必要となるコミュニケーション能力と論理的思考を支える読解・表現に関する基礎的な力を身に付ける。				
留意点					
授業外に必要な学習内容	教科書に示されている日本語表現の基礎内容を繰り返し確認しておくこと。 漢字の教科書を参考に、漢字の読み書きの復習をして、漢字力を身につけること。				
授業内容	講義と実践(演習、ロールプレイ)により、理解と確認を繰り返す。ソーシャルスキルを学ぶことで、良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を育て、日本語表現の基礎を学び適切な文章を論理的思考を用いて読むことにより読解力や表現力の向上を図る。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	ガイダンス 漢字P64・65・66 読解ドリル「文の構造をつかもう」	教科書・補足プリント
2	漢字P67・68・69 読解ドリル「未知の熟語の意味も、こう推測「〇×△の世界へようこそ」	教科書・補足プリント
3	漢字P70・71・72 読解ドリル「怪しい言葉には△をつける」	教科書・補足プリント
4	漢字P73・74・75 スタディスキル「正しい日本語を使う 敬語」	教科書・補足プリント
5	漢字P76・77・78 読解ドリル「指示語を意識して、正しく読み取る」	教科書・補足プリント
6	漢字P79・80・81 読解ドリル「接続語の用法を知れば、読解力倍増」	教科書・補足プリント
7	漢字P82・83・84 読解ドリル「因果関係に注意しよう」「品詞の判断はこんなに簡単」	教科書・補足プリント
8	漢字P85・86・87 ソーシャルスキル「話し合い」	教科書・補足プリント パワーポイント
9	漢字P88・89・90 ソーシャルスキル「アサーション」	教科書・補足プリント パワーポイント
10	漢字P91・92・93 読解ドリル「論説文1・2」	教科書・補足プリント

11	漢字 P 98・99・100 読解ドリル「論説文3」	教科書・補足プリント
12	漢字 P 101・102・103 ソーシャルスキル「上手に断るアサーション」	教科書・補足プリント パワーポイント
13	漢字 P 104・105・106 前期授業内容のフィードバック	教科書・補足プリント
14	前期試験	試験問題
15	試験返却・スタディスキル「正しい日本語を使う」言葉の意味 漢字 P 107・108・109	教科書・補足プリント
16	漢字 P 110・111・112 読解ドリル「論説文4」	教科書・補足プリント
17	漢字 P 113・114・115 読解ドリル「物語文1・2」	教科書・補足プリント
18	漢字 P 116・117・118 読解ドリル「物語文3」	教科書・補足プリント
19	漢字 P 119・120・121 読解ドリル「物語文4」	教科書・補足プリント
20	漢字 P 122・123・124 スタディスキル「漢字・表記」	教科書・補足プリント
21	漢字 P 125・126・127 スタディスキル「手紙文」	教科書・補足プリント
22	漢字 P 128・129・130 読解ドリル「物語文5」	教科書・補足プリント
23	漢字 P 131・136・137 読解ドリル「物語文6」	教科書・補足プリント
24	漢字 P 138・139・140 スタディスキル「調べてレポートを書く」	教科書・補足プリント
25	漢字 P 141・142・143 スタディスキル「調べてレポートを書く」・レポート発表	教科書・補足プリント
26	漢字 P 144・145・146 読解ドリル「物語文7」	教科書・補足プリント
27	漢字 P 147・148・149 読解ドリル総復習・漢字の読み書き	教科書・補足プリント
28	漢字 P 150・151 後期授業内容のフィードバック	教科書・補足プリント
29	後期試験	試験問題
30	試験返却・漢字・読解問題	教科書・補足プリント

2025年度

授 業 要 項

科 目	解剖学 1	学科名	はりきゅう	履修年次	1 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位 (38 コマ)
教 員	奥田 望	領域	専門基礎	実務経験	鍼灸院
教科書	『解剖学第2版』				
参考書	生理学(医歯薬出版株式会社) イラスト解剖学(中外医学社) プロメテウス解剖学コアアトラス(医学書院)など				
成績評価	学則規定に基づく。				
評価基準	定期試験、出欠席、提出物などの総合評価とし、学則に定める試験評価に準ずる。				
到達目標	人体の区分、位置関係を解剖学的肢位に基づいて把握できる。 筋骨格系の知識から、人体の運動や体表の指標を把握できる。				
留意点	全出席を心がけること。				
授業外に必要な 学習内容	授業の内容を復習し、予習もしっかりとおこなう。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、鍼灸治療に必要とされる筋骨格系を しっかりと身につけさせる。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション 第1章 人体の構成 人体の区分と方向	プロジェクター
2	第10章 運動器系 Ⅰ. 総論 1. 骨格系 2. 筋系	プロジェクター
3	Ⅱ. 全身の骨格 1. 脊柱	プロジェクター
4	Ⅱ. 全身の骨格 1. 脊柱	プロジェクター
5	Ⅱ. 全身の骨格 2. 胸郭	プロジェクター
6	Ⅱ. 全身の骨格 2. 胸郭	プロジェクター
7	Ⅱ. 全身の骨格 3. 上肢の骨格	プロジェクター
8	Ⅱ. 全身の骨格 3. 上肢の骨格	プロジェクター
9	Ⅱ. 全身の骨格 3. 上肢の骨格	プロジェクター
10	Ⅱ. 全身の骨格 4. 下肢の骨格	プロジェクター
11	Ⅱ. 全身の骨格 4. 下肢の骨格	プロジェクター
12	Ⅱ. 全身の骨格 4. 下肢の骨格	プロジェクター
13	定期試験	プロジェクター

14	Ⅲ. 体幹 1. 体幹の筋	プロジェクター
15	Ⅲ. 体幹 1. 体幹の筋	プロジェクター
16	Ⅲ. 体幹 1. 体幹の筋	プロジェクター
17	Ⅲ. 体幹 1. 体幹の筋	プロジェクター
18	Ⅲ. 体幹 1. 体幹の筋 2. 体幹の運動 3. 体幹の局所解剖	プロジェクター
19	Ⅳ. 上肢 1. 上肢の筋	プロジェクター
20	Ⅳ. 上肢 1. 上肢の筋	プロジェクター
21	Ⅳ. 上肢 1. 上肢の筋	プロジェクター
22	Ⅳ. 上肢 1. 上肢の筋	プロジェクター
23	Ⅳ. 上肢 1. 上肢の筋 2. 上肢の運動 3. 上肢の局所解剖	プロジェクター
24	Ⅴ. 下肢 1. 下肢の筋	プロジェクター
25	Ⅴ. 下肢 1. 下肢の筋	プロジェクター
26	Ⅴ. 下肢 1. 下肢の筋	プロジェクター
27	Ⅴ. 下肢 1. 下肢の筋	プロジェクター
28	Ⅴ. 下肢 1. 下肢の筋 2. 下肢の運動 3. 下肢の局所解剖	プロジェクター
29	Ⅱ. 全身の骨格 5. 頭蓋骨	プロジェクター
30	Ⅱ. 全身の骨格 5. 頭蓋骨	プロジェクター
31	Ⅱ. 全身の骨格 5. 頭蓋骨	プロジェクター
32	Ⅱ. 全身の骨格 5. 頭蓋骨	プロジェクター
33	Ⅵ. 頭頸部 1. 頭頸部の筋	プロジェクター
34	Ⅵ. 頭頸部 1. 頭頸部の筋	プロジェクター
35	Ⅵ. 頭頸部 1. 頭頸部の筋	プロジェクター
36	Ⅵ. 頭頸部 1. 頭頸部の筋	プロジェクター
37	定期試験	プロジェクター
38	ふりかえり	プロジェクター

2025年度

授 業 要 項

科 目	解剖学 2	学科名	はりきゅう	履修年次	1 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位 (38 コマ)
教 員	八重樫 久都	領域	専門基礎分野	実務経験	鍼灸院
教科書	解剖学 第2版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社				
参考書	生理学 第2版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社 プロメテウス解剖学 コアアトラス Anne M. Gilroy / Brian R. MacPherson / Jamie C. Wikenheiser 医学書院				
成績評価	小テスト、前期試験、後期試験および授業態度などを総合して評価する。				
評価基準	学則規定に基づく。				
到達目標	人体の構造について理解を深めるとともに、生理学や2年次以降の科目にいきる基礎を構築する。				
留意点	定期的に小テストを行う。				
授業外に必要な学習内容	復習として教科書の熟読、授業資料の見直しをすること。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、細胞、組織、循環器系、呼吸器系、消化器系、神経系、脈管系等の人体の構造を学ぶ。 解剖学教科書において第1章～第4章、第8章、第10章(神経・脈管)を学習範囲とする。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション 第1章 人体の構成（細胞）	
2	第1章 人体の構成（組織）	
3	第1章 人体の構成（組織）	
4	第1章 人体の構成（体表構造）	
5	第3章 呼吸器系（鼻腔・副鼻腔・咽頭・喉頭）	
6	第3章 呼吸器系（気管・気管支・肺）	
7	第2章 循環器系（血管系）	
8	第2章 循環器系（心臓）	
9	第2章 循環器系（心臓）	
10	第2章 循環器系（動脈系）	
11	第2章 循環器系（静脈系）	
12	第2章 循環器系（胎児循環・リンパ系）	
13	第4章 消化器系（消化管の基本構造）	

14	第4章 消化器系（口腔・咽頭・食道・胃）	
15	第4章 消化器系（小腸・大腸）	
16	第4章 消化器系（肝臓・胆嚢）	
17	第4章 消化器系（膵臓・腹膜）	
18	前期本試験	
19	試験解説	
20	第8章 神経系（神経系の構成）	
21	第8章 神経系（中枢神経系）	
22	第8章 神経系（中枢神経系）	
23	第8章 神経系（中枢神経系）	
24	第8章 脳の血管 第10章 頭頸部の脈管系	
25	第8章 神経系（伝導路）	
26	第8章 神経系（伝導路）	
27	第8章 神経系（末梢神経系：脳神経）	
28	第8章 神経系（末梢神経系：脳神経）	
29	第8章 神経系（末梢神経系：脳神経）	
30	第8章 神経系（末梢神経系：脊髄神経） 第10章 上肢の神経走行	
31	第8章 神経系（末梢神経系：脊髄神経） 第10章 下肢の神経走行	
32	第8章 神経系（自律神経系）	
33	第8章 神経系（自律神経系）	
34	第10章 上肢の脈管	
35	第10章 下肢の脈管	
36	後期本試験	
37	試験解説	
38	重要箇所の復習	

2025年度

授 業 要 項

科 目	解剖学 3	学科名	はりきゅう	履修年次	2 年次
		教授法	講義	単位数コマ	2 単位 (25 コマ)
教 員	星 伴路	領域	専門基礎	実務経験	鍼灸院
教科書	『解剖学 第2版』東洋療法学校協会編医歯薬出版				
参考書	『イラスト解剖学 第7版』松村 譲児 著 中外医学社 『解剖学講義 改訂3版』伊藤 隆 著 南山堂				
成績評価	中間・期末の定期試験、出席等で判定する。				
評価基準	学則規定に基づく。				
到達目標	人体の器官・組織・細胞の形態と配置を理解し、他の基礎科目や臨床科目を理解する礎を築く。				
留意点	教科書に加えて、模型やイラストなどを参考に理解を深める。				
授業外に必要な学習内容	1) 何度も教科書を眺め、文字と図を馴染ませる。 2) 授業前に予習(授業予定範囲の教科書の先読み)、復習時間(授業内容の整理)を行う。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、本科目では第6章生殖器系、第7章内分泌系、第9章感覚器系について学ぶ。 感覚器系と深く関わる第8章神経系の脳神経についても復習を行う。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション 第5章 泌尿器系(概要)	
2	1. 腎臓 肉眼構造	
3	組織構造と血管	
4	2. 尿路 1) 尿管 2) 膀胱	
5	3) 尿道	
6	第6章 生殖器系 1. 男性生殖器 1) 精巣 2) 精路	
7	3) 外生殖器 4) 精液	
8	2. 女性生殖器 1) 卵巣 2) 卵管	
9	3) 子宮 4) 膣 5) 外生殖器	
10	3. 受精と発生 1) 受精 2) 卵割 3) 着床 4) 胚葉の形成	
11	5) 胎盤	
12	中間試験(試験後 解答・解説)	
13	第7章 内分泌系 1. 下垂体 2. 松果体	

14	3. 甲状腺 4. 上皮小体	
15	5. 副腎 6. 脾臓 7. 性腺	
16	第9章 感覚器 1. 視覚器 1) 眼球	
17	2) 眼球の付属器	
18	2. 聴覚・平衡感覚器 1) 外耳 2) 中耳	
19	3) 内耳①	
20	3) 内耳②	
21	3. 味覚器	
22	4. 嗅覚器	
23	演習問題	
24	前期末試験	
25	試験解答・解説	

2025年度

授 業 要 項

科 目	生 理 学 1	学 科 名	は り き ゅ う	履 修 年 次	1 年 次
		教 授 法	講 義	単 位 数 コ マ	3 単 位 (38 コ マ)
教 員	星 伴 路	領 域	専 門 基 礎	実 務 経 験	鍼 灸 院
教科書	『生理学 第3版』医歯薬出版				
参考書					
成績評価	定期試験、出席等により判定する				
評価基準	学則規定に基づく				
到達目標	ヒトの身体機能がどのように維持されているのかを理解する				
留意点	毎時間、復習の小テストを行う。7割以上の得点を目指し、毎日1回は見直しと暗記を心掛けること				
授業外に必要な学習内容	資料を参考に、「見慣れる」「単語を見ると図が思い浮かぶ」ぐらいになるよう何度も復習すること また、過去問を何度も解き、覚えにくい箇所をあぶり出し、復習箇所のポイント把握に努める				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ授業を行う。 第1章～第7章、第14章、第15章を範囲とする。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション 第15章 身体活動の協調	
2	第1章 生理学の基礎 A. 生理機能の特徴 B. 細胞の構造と機能①	
3	B. 細胞の構造と機能② C. 物質代謝	
4	D. 体液の組成と働き E. 物質移動	
5	第2章 循環 A. 血液の組成と働き①	
6	A. 血液の組成と働き②	
7	B. 止血 C. 線維素溶解 D. 血液型	
8	E. 心臓血管系① F. 心臓の構造と働き①	
9	F. 心臓の構造と働き②	
10	G. 血液循環 H. 循環調節	
11	I. リンパ系	
12	中間試験（試験後 解答・解説）	
13	第3章 呼吸 A. 呼吸器 B. 換気とガス交換①	

14	B. 換気とガス交換② C. 呼吸運動都とその調節	
15	第4章 消化と吸収 A. 消化と吸収	
16	B. 消化管の運動	
17	C. 消化液 D. 吸収	
18	E. 肝臓の働き F. 摂食の調節	
19	演習問題	
20	前期末試験	
21	試験解答	
22	第5章 代謝 A. 食品と栄養素 B. 代謝	
23	C. 各栄養素の働きと代謝①	
24	C. 各栄養素の働きと代謝②	
25	第6章 体温 A. 体温調節 B. 体熱の産生と放散	
26	C. 発汗とその調節 D. 体温調節の障害	
27	第7章 排泄 A. 腎臓の働き B. 腎循環	
28	C. 尿生成 D. 腎臓と体液の調節	
29	中間試験（試験後 解答・解説）	
30	第14章 生体の防御機構 A. 生体の防御機構①	
31	A. 生体の防御機構②	
32	B. 免疫反応	
33	第15章 身体活動の協調 A. 生体の適応 B. 恒常性の維持①	
34	B. 恒常性の維持②	
35	B. 恒常性維持③ C. バイオリズム	
36	演習問題	
37	後期期末試験	
38	試験解答	

2025年度

授 業 要 項

科 目	生理学 2	学科名	はりきゅう	履修年次	1 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位 (38 コマ)
教 員	林 陽子	領域	専門基礎	実務経験	鍼灸院
教科書	生理学(東洋療法学校協会編)				
参考書					
成績評価	筆記試験により判定する。				
評価基準	学校基準に準ずる。				
到達目標	人体の生命活動がどのような仕組みで維持されているのかを理解する。				
留意点					
授業外に必要な学習内容	予習と復習				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ授業を行う。 教科書「生理学」の「第8章内分泌」から「第15章身体活動の協調」までを講義の範囲とする。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	第 1 5 章 身体活動の協調 A. 生体の適応 B. 恒常性維持 第 8 章 内分泌 A. ホルモンの特徴	
2	B. ホルモンの種類とその働き a. 視床下部と下垂体～d. 甲状腺のホルモン	
3	c. 副甲状腺ホルモン～ g. 副腎のホルモン	
4	g. 副腎のホルモン～i. 卵巣のホルモン	
5	j. その他のホルモン 第 9 章 生殖・成長と老化 A. 生殖	
6	B. 妊娠と出産 C. 成長	
7	D. 老化	
8	第10章 神経 A. ニューロンの構造と働き B. 神経線維の興奮伝導①a, b.	
9	中間試験：開始～20分間 <試験範囲> 始め～第9章 後半60分：講義	
10	B. 神経線維の興奮伝導②c C. シナプス伝達①a. ～c.	
11	C. シナプス伝達②d, e. D. 中枢神経系の分類と機能	
12	E. 反 射 F. 脊 髄	
13	G. 脳 幹 H. 小脳 I. 視床 J. 視床下部	
14	K. 大脳	

15	L. 脳脊髄液 M. 末梢神経	
16	N. 自律神経系 a. 自律神経系の概要 b. 交感神経系 c. 副交感神経系	
17	d. 自律神経調節の特徴～h. 自律神経系の神経伝達物質と受容体	
18	前期期末試験 <試験範囲> 第10章A～M	
19	解答・解説 授業 i. 自律神経系の中核 j. 自律神経の関与する反射①	
20	J. 自律神経の関与する反射② 第11章 筋 A. 骨格筋の構造と働き	
21	B. 筋の収縮の仕組み C. 筋のエネルギー供給の仕組み	
22	D. 心筋と平滑筋 第12章 運動 A. 骨格筋の神経支配①	
23	A. 骨格筋の神経支配② B. 運動の調節①	
24	B. 運動の調節②	
25	B. 運動の調節③	
26	C. 錐体路系と錐体外路系	
27	後期中間試験：開始～20分間 <試験範囲> 第10章N. 自律神経～第12章A. 後半60分：講義 D. 発声と言語	
28	第13章 感覚 A. 感覚の分類と一般的性質	
29	B. 体性感覚 C. 内臓感覚	
30	D. 痛覚 E. 味覚と嗅覚①	
31	E. 味覚と嗅覚② F. 聴覚 G. 平衡感覚	
32	H. 視覚	
33	第14章 生体の防御機構 A. 生体の防御機構①	
34	A. 生体の防御機構②	
35	B. 免疫応答	
36	第15章 生体活動の協調	
37	後期期末試験	
38	解答解説・再試験	

＜ 2025年度＞

授 業 要 項

科 目	生 理 学 3	学科名	はりきゅう	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	1単位(13コマ)
教 員	児 玉 農	領域	専門基礎	実務経験	鍼灸院
教科書	『解剖学第2版』『生理学第2版』東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
参考書	『解剖学第2版』『生理学第2版』東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
成績評価	定期試験にて成績を評価する。				
評価基準	学則に基づく。				
到達目標	人体の正常な構造と機能を理解する。				
留意点	その他の教科の基礎となる科目であるため、その内容の把握に努めること。				
授業外に必要な学習内容	各自の基礎分野の理解度の把握と弱点となる分野を明確にする。 各授業前に自身の弱点部分を一度熟読する。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、本科目では次の内容を教授する。 ・1年次の内容を復習しながら、2年次で履修する他科目との関連が深いものについて学習する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	神経系の生理学	
2	神経系の生理学	
3	神経系の生理学	
4	神経系の生理学	
5	感覚の生理学	
6	感覚の生理学	
7	感覚の生理学	
8	筋と運動の生理学	
9	筋と運動の生理学	
10	筋と運動の生理学	
11	筋と運動の生理学	
12	期末試験	
13	試験解説	

2025年度

授 業 要 項

科 目	衛生学・公衆衛生学	学科名	はりきゅう	履修年次	3 年次
		教授法	講義	単位数コマ	2 単位 (25 コマ)
教 員	林 陽子	領域	専門基礎	実務経験	鍼灸院
教科書	「衛生学・公衆衛生学」東洋療法学校協会編				
参考書	「公衆衛生学がみえる」メディックメディア 「イラスト公衆衛生学」東京教学社など				
成績評価	科目評価試験、授業態度(出席状況含む)、授業中の確認試験(小テスト等)、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。				
評価基準	同上				
到達目標	はりきゅう師に必要な環境や、医療人としての必要な知識を習得する。				
留意点	全出席を心がけること。授業の進捗状態で内容に変更あり。				
授業外に必要な学習内容	主に学習したことを復習し、4択問題などをおこなう。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ授業を行う。 鍼灸師として健康に関わる衣食住を広く知り、歴史を踏まえて近年の公衆衛生の動向などの理解に努めるとともに現代の健康に関する傾向や懸念点、今後、問題となるであろう事柄の理解に努め、社会の要請と鍼灸師として貢献できることを考えるための知識を身に着ける。 また、国家試験の出題分野が多い内容に重点をおいておこなう。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	第1章 衛生学・公衆衛生学の意義 第2章 健 康 1. 健康の概要①	
2	第2章 健 康 1. 健康の概要② 2. 健康管理①	
3	第2章 健 康 2. 健康管理②	
4	第3章 1. 食品と栄養① 1) 食品の意義と食生活～	
5	1. 食品と栄養② 5) 食中毒～ 2. 運動と健康	
6	第4章 1. 環境とは 2. 日常生活環境① 1) 物理学的環境要因	
7	2. 日常生活環境② 2) 化学的環境要因①	
8	中間試験1/2 範囲：第1章～第3章 * 試験時間40分 試験後授業 2) 化学的環境要因②	
9	3. 環境問題① 1) 公害	
10	3. 環境問題① 2) 地球規模の環境問題	
11	第5章 産業保健	
12	第6章 1. 精神保健の意義 2. 精神の健康	
13	3. 精神障害の現状と分類	

14	第7章 母子保健 1. 母子保健の意義～	
15	4. 母子保護と家族計画	
16	中間試験2/2 範囲：第4章～第7章 * 試験時間40分 試験後授業 第8章 学校保健① 1. 学校保健の意義～	
17	3. 保健教育～ 第9章 成人・高齢者保健① 1. 成人・高齢者保健の意義～	
18	3. 生活習慣病の特徴と対策～	
19	第10章 感染症とその対策 1. 感染症の意義と種類～	
20	2. 発生要因～	
21	第11章 消毒法	
22	第12章 疫学	
23	第13章 保健統計	
24	期末試験 範囲：第8章～第13章	
25	解答解説 追再試験	

2025年度

授 業 要 項

科 目	病理学概論	学科名	はりきゅう	履修年次	2 年次
		教授法	講義	単位数コマ	2 単位 (25 コマ)
教 員	星 伴路	領域	専門基礎	実務経験	治療院
教科書	『病理学概論 第2版』東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社				
参考書	『解剖学第2版』、『生理学第3版』東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社				
成績評価	中間試験、期末試験、出席等から総合評価し、学校の定める試験評価に準ずる				
評価基準	学則規定に基づく				
到達目標	人体に生ずる病的な状態、すなわち病気(疾病)の本体を追求し、形態学的・機能的な変化について知る				
留意点	情報量が多いため、こまめに情報の整理を行いながら繰り返し復習し、知識の定着を図ること				
授業外に必要な学習内容	基礎医学である解剖学、生理学の知識が必要となるため、事前に復習を行うこと				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、解剖学・生理学の知識をもとに人体に生じる病的な状態について学ぶ				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション 第1章、第2章	
2	第3章 病因	
3	第3章 病因	
4	第4章 循環障害	
5	第4章 循環障害	
6	中間試験（試験後 解答・解説）	
7	第5章 退行性病変	
8	第5章 退行性病変	
9	第6章 進行性病変	
10	第6章 進行性病変	
11	演習問題	
12	前期期末試験	
13	試験解説	

14	第 7 章 炎症	
15	第 7 章 炎症	
16	第 8 章 腫瘍	
17	第 8 章 腫瘍	
18	中間試験（試験後 解答・解説）	
19	第 9 章 免疫異常・アレルギー	
20	第 9 章 免疫異常・アレルギー	
21	第 10 章 先天性異常	
22	第 10 章 先天性異常	
23	演習問題	
24	後期期末試験	
25	試験解説	

2025年度

授 業 要 項

科 目	リハビリテーション医学	学科名	はりきゅう	履修年次	3 年次
		教授法	講義	単位数コマ	2 単位 (25 コマ)
教 員	西岡 岳之	領域	専門基礎	実務経験	鍼灸院
教科書	1.『リハビリテーション医学』公益社団法人東洋療法学校協会編				
参考書	1. 教材・資料プリント配布 2.『標準リハビリテーション医学』医学書院 3.『理学療法ハンドブック』協同医書出版社 4.『障害と活動の測定・評価ハンドブック』南江堂				
成績評価	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを期末試験にて評価する。				
評価基準	同上				
到達目標	障害を理解し、リハビリテーションの各時期に応じた対応を学ぶと共に、はき施術・介護分野・リハビリテーションにおける臨床・福祉の現場で活用できる、障害評価手法を学ぶ。また、疾患別の障害の定義、分類について習得する。				
留意点	リハビリテーション医学は「人間たるにふさわしい状態になる」という意味である。中世では「名誉の回復」という法律用語として使用されてきた。従って、本学問は「人間たるにふさわしい状態になる」ために行うアプローチ(対応)の体系である。疾病や障害によって、出来ないことできるようになるといった単なる機能の回復という狭い意味ではなく、権利・資格・名誉の回復など人間らしく生きる権利の回復を目指す。本科目を通じて、疾病や障害をもちながらもそこで生活する「その人」とどう関わり、その関わりから何を学ぶかという基本姿勢を軸に学習してほしい。				
授業外に必要な学習内容	臨床医学総論・臨床医学各論・解剖学(筋骨格系)の勉強を必要とする。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ本科目では次の内容について授業を行う。 リハビリテーションは運動機能、日常生活活動の能力の障害を回復させ、社会・環境への適応を促進するために必要な第4の医学と呼ばれる。本講義では、リハビリテーション医学を理解し、障害と障害者への対応の概念を疾患別に学習する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	ノーマライゼーション 自立生活 障害の種類 国際生活機能 (ICF)	
2	リハビリの分野・時期 医療チームと専門職	
3	介護保険制度 地域リハビリテーション 診断・評価学：四肢長・周径 ROM-T	
4	診断・評価学： 筋力評価 (MMT) ADLの評価 廃用症候群	
5	診断・評価学：廃用症候群 フレイル サルコペニア 認知機能評価 心理・知能評価 筋緊張異常 嚥下の評価 筋緊張の異常	
6	診断・評価学：アシュワーススケール ブルンストロームステージ 運動学：姿勢	
7	運動学：正常歩行	
8	治療学：運動療法 (ROM、筋力増強訓練) 治療体操	
9	治療学：杖歩行 物理療法 作業療法 言語聴覚療法 嚥下評価	
10	治療学：補装具療法、末梢神経障害	

11	まとめ	各疾患のリハビリテーション② 関節リウマチのリハビリテーション
12	定期試験	
13	定期試験フィードバック 整形外科疾患：骨関節疾患（腱板炎、五十肩、腰痛症）	
14	整形外科疾患：骨関節疾患（変形性股・膝関節症） 大腿骨頸部骨折	
15	整形外科疾患：関節リウマチ 脊髄損傷	
16	整形外科疾患：脊髄損傷	
17	整形外科疾患：切断	
18	神経疾患：脳卒中（高次脳機能障害）	
19	神経疾患：脳卒中	
20	神経疾患：脳卒中 パーキンソン病	
21	神経疾患：パーキンソン病	
22	内部障害：虚血性心疾患	
23	まとめ	
24	定期試験	
25	期末試験フィードバック 内部障害：心疾患	

2025年度

授 業 要 項

科 目	運 動 学	学科名	はりきゅう	履修年次	3 年次
		教授法	講義	単位数コマ	1 単位 (13 コマ)
教 員	西岡 岳之	領域	専門基礎	実務経験	鍼灸院
教科書	1.『リハビリテーション医学』公益社団法人東洋療法学校協会編				
参考書	1. 教材・資料プリント配布 2.『標準リハビリテーション医学』医学書院				
成績評価	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを期末試験にて評価する。				
評価基準	同上				
到達目標	人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の構造の持つ運動の働きを理解し、臨床現場に応用出来る基礎を身に着ける。				
留意点	3年時終盤に差し掛かる時期ゆえに、運動学とリハビリテーション医学を総括し、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける講義と演習問題を中心とする。				
授業外に必要な学習内容	解剖学と運動器疾患の復習				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ本科目では次の内容について授業を行う。 生体の構造における運動を学び、正常な構造の破綻又は運動に異常を来した疾病を理解するための基盤として重要である。従って、人体の正常な構造に基づく運動の働きを学ぶことで、臨床現場での対応の基礎を修得する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	内部障害：虚血性心疾患	
2	内部障害：呼吸器疾患	
3	国家試験の特徴・傾向の説明 忘却曲線・記憶の定着 はき33回リハ国家試験問題の解答解説	
4	第33回あまし国家試験解答解説 類似問題作成のGW（グループワーク）	
5	第32回あまし問題国家試験解答解説 前回GWのフィードバック	
6	第32回、31回はき国家試験解答解説	
7	第31回、30回あまし国家試験解答解説	
8	第30回、29回はき国家試験解答解説	
9	運動学期末試験	
10	期末試験フィードバック	
11	第29回あまし国家試験解答解説	
12	運動学 体幹、上肢、下肢問題解答解説	
13	国家試験仮想模試解答解説	

2025年度

授 業 要 項

科 目	臨床医学総論	学科名	はりきゅう	履修年次	2 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位 (38 コマ)
教 員	深澤 栄一	領域	専門基礎	実務経験	鍼灸院
教科書	臨床医学総論(医歯薬出版)				
参考書					
成績評価	学期末試験				
評価基準	学期末試験において60%以上をもって単位取得とする				
到達目標	身体各部の検査法を理解することにより、鍼灸の適用、不適用を判断できるようにすること				
留意点					
授業外に必要な学習内容					
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、教科書を中心に板書、パワーポイントを併用し、解剖、生理学を取り入れながら行なう				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	ガイダンス、 診察概要（意義、心得、用語、種類、順序）	パワーポイント
2	診察の方法（医療面接）	パワーポイント
3	診察の方法（視診、触診、打診、聴診、身体測定）	パワーポイント
4	診察の方法（神経系の診察） 生命徴候の診察（体温、脈拍）	パワーポイント
5	生命徴候の診察（血圧、呼吸）	パワーポイント
6	全身の診察（顔貌、顔色、精神状態、言語）	パワーポイント
7	全身の診察（身体測定、体型、体格）	パワーポイント
8	全身の診察（栄養状態、姿勢と体位）	パワーポイント
9	全身の診察（歩行、皮膚、粘膜、皮下組織、）	パワーポイント
10	全身の診察（つめ、リンパ、その他）	パワーポイント
11	局所の診察（頭部、顔面、眼）	パワーポイント
12	局所の診察（鼻、耳、口腔）	パワーポイント
13	局所の診察（頸部、胸部、乳房、肺、胸膜）	パワーポイント

14	局所の診察（心臓、腹部①）	パワーポイント
15	局所の診察（腹部②）	パワーポイント
16	局所の診察（背部、四肢①）	パワーポイント
17	前半定期試験	
18	試験評価 局所の診察（四肢②、下肢）	パワーポイント
19	神経系の診察（感覚検査① 表在性知覚まで）	パワーポイント
20	神経系の診察（感覚検査②）	パワーポイント
21	神経系の診察（反射①）	パワーポイント
22	神経系の診察（反射②）	パワーポイント
23	神経系の診察（脳神経系の検査）	パワーポイント
24	神経系の診察（髄膜刺激症状検査、その他の検査）	パワーポイント
25	運動機能検査（運動麻痺）	パワーポイント
26	運動機能検査（筋肉の異常）	パワーポイント
27	運動機能検査（不随運動）	パワーポイント
28	運動機能検査（協調運動、起立と歩行）	パワーポイント
29	運動機能検査（徒手による整形外科的検査法①）	パワーポイント
30	運動機能検査（徒手による整形外科的検査法②）	パワーポイント
31	その他の検査法（救急、女性、小児、老人） 臨床検査法（一般検査 尿、便）	パワーポイント
32	臨床検査法（一般検査 血液）	パワーポイント
33	臨床検査法（血液生化学検査 ①）	パワーポイント
34	臨床検査法（血液生化学検査 ②）	パワーポイント
35	臨床検査法（生理学的検査 ）	パワーポイント
36	治療学 1	パワーポイント
37	後半定期試験	
38	試験評価 臨床心理	パワーポイント

2025年度

授 業 要 項

科 目	臨床医学各論 1	学科名	はりきゅう	履修年次	2 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位 (38 コマ)
教 員	八重樫 久都	領域	専門基礎	実務経験	鍼灸院
教科書	臨床医学各論 第2版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社				
参考書	生理学 第2版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社 臨床医学総論 第2版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社				
成績評価	小テスト、前期試験、後期試験および授業態度などを総合して評価する。				
評価基準	学則規定に基づく。				
到達目標	学習する疾患や症候群について理解を深めるとともに、鍼灸臨床にいきる知識を身につける。				
留意点	定期的に小テストを行う。解剖学、生理学を理解しているものとして授業を進める。				
授業外に必要な学習内容	本授業を受けるにあたり基礎知識として解剖学、生理学の理解が必要となるため復習をすること。 授業後は授業で行った内容について教科書および授業資料で復習をすること。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、感染症、消化器疾患、肝・胆・膵疾患、呼吸器疾患、腎・尿器疾患、内分泌疾患、代謝・栄養疾患、整形外科疾患の病態や症状、診断、治療等について学ぶとともに、それに付随した解剖学・生理学の内容を復習しながら、理解を深める。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション 第1章 感染症（総論）	
2	第1章 感染症（細菌感染症）	
3	第1章 感染症（ウイルス感染症）	
4	第1章 感染症（性感染症・その他）	
5	第2章 消化器疾患（口腔疾患、食道疾患）	
6	第2章 消化器疾患（胃・十二指腸疾患）	
7	第2章 消化器疾患（腸疾患）	
8	第2章 消化器疾患（腹膜疾患・その他）	
9	第3章 肝・胆・膵疾患（急性肝炎・慢性肝炎）	
10	第3章 肝・胆・膵疾患（肝硬変・肝癌）	
11	第3章 肝・胆・膵疾患（胆道疾患・膵臓疾患）	
12	第4章 呼吸器疾患（感染性呼吸器疾患）	
13	第4章 呼吸器疾患（閉塞性呼吸器疾患・アレルギー性疾患）	
14	第4章 呼吸器疾患（拘束性呼吸器疾患・腫瘍性疾患）	
15	第4章 呼吸器疾患（その他）	

16	前期本試験	
17	試験解説	
18	第5章 腎・尿器疾患（原発性糸球体腎炎）	
19	第5章 腎・尿器疾患（腎不全）	
20	第5章 腎・尿器疾患（感染症・腫瘍性疾患・排尿障害）	
21	第5章 腎・尿器疾患（結石症・前立腺疾患・男性生殖器疾患）	
22	第6章 内分泌疾患（下垂体疾患）	
23	第6章 内分泌疾患（甲状腺疾患・副甲状腺疾患）	
24	第6章 内分泌疾患（副腎疾患）	
25	第6章 内分泌疾患（膵内分泌疾患）	
26	第7章 代謝・栄養疾患（糖代謝異常）	
27	第7章 代謝・栄養疾患（脂質代謝異常）	
28	第7章 代謝・栄養疾患（尿酸代謝異常・ビタミン欠乏症）	
29	第7章 代謝・栄養疾患（その他の代謝異常症）	
30	第8章 整形外科疾患（関節疾患）	
31	第8章 整形外科疾患（筋腱疾患）	
32	第8章 整形外科疾患（形態異常・骨代謝疾患脊椎疾患）	
33	第8章 整形外科疾患（脊椎疾患）	
34	第8章 整形外科疾患（脊髄損傷）	
35	第8章 整形外科疾患（外傷・スポーツ傷害）	
36	第8章 整形外科疾患（その他の整形外科疾患）	
37	後期本試験	
38	試験解説・総復習	

2025年度

授 業 要 項

科 目	臨床医学各論 2	学科名	はりきゅう	履修年次	3 年次
		教授法	講義	単位数コマ	2 単位 (25 コマ)
教 員	林 陽子	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	臨床医学各論 公益社団法人東洋療法学校協会編				
参考書	生理学(東洋療法学校協会編)、東洋医学臨書論(東洋療法学校協会編)、からだの地図帳、病気の地図帳				
成績評価	筆記試験により判定する。				
評価基準	学校基準に準ずる。				
到達目標	疾病の成因を理解し鑑別できる。注意すべき症状などを的確に身につける。				
留意点					
授業外に必要な学習内容	・予習と復習				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院等での勤務経験を踏まえ、教科書を中心に、参考となるプリントを用いて授業を行う。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	授業ガイダンス 第9章 循環器疾患 1	
2	循環器疾患 2	
3	循環器疾患 3	
4	循環器疾患 4 第10章 血液・造血器疾患 1	
5	血液・造血器疾患 2	
6	前期中間試験 開始～30分間 <試験範囲> 第9章循環器疾患 授業 血液・造血器疾患 3	
7	中間試験解説 血液・造血器疾患 4 第11章 神経疾患 1	
8	神経疾患 2	
9	神経疾患 3	
10	神経疾患 4	
11	神経疾患 5	
12	前期末試験 <試験範囲> 第10章、第11章Cまで *再試験は1週間後を目安に	
13	解答解説 授業 神経疾患 6	
14	第12章 リウマチ性疾患・膠原病 1	

15	リウマチ性疾患・膠原病 2 第13章 その他の領域 1	
16	その他の領域 2	
17	その他の領域3	
18	後期中間試験45分 <試験範囲>第11章D基底核変性疾患～第13章B一般外科 授業 その他の領域 4	
19	解答解説 授業 その他の領域 5	
20	その他の領域 6	
21	その他の領域 7	
22	臨床検査基準値	
23	復習・授業予備日	
24	後期期末試験 <試験範囲>第13章C麻酔科～最後	
25	解説 再試験	

2025年度

授 業 要 項

科 目	医療概論	学科名	はりきゅう	履修年次	3 年次
		教授法	講義	単位数コマ	1 単位 (13 コマ)
教 員	古川 清裕	領域	専門基礎	実務経験	鍼灸院
教科書	『医療概論』東洋療法学校協会				
参考書	配布資料など				
成績評価	期末試験、授業態度などを総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。				
評価基準	同上				
到達目標	はりきゅう師に必要な環境や、医療人としての必要な知識を習得する。				
留意点	全出席を心がけること。				
授業外に必要な学習内容	特になし。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、医療人として医療の歴史や近年の社会保障についての知識を展開する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション 医学史の序説	
2	医学史の意義と特質	
3	西洋の医学と医療の歴史	
4	西洋の医学と医療の歴史	
5	東洋の医学と医療の歴史	
6	東洋の医学と医療の歴史	
7	日本の医学と医療の歴史	
8	日本の医学と医療の歴史	
9	現代医学の課題	
10	現代の医療制度	
11	現代の医療制度	
12	医療倫理・施術者としての倫理	
13	定期試験	

2025年度

授 業 要 項

科 目	関係法規	学科名	はりきゅう	履修年次	1 年次
		教授法	講義	単位数コマ	1 単位 (13 コマ)
教 員	古川 清裕	領域	専門基礎	実務経験	鍼灸院
教科書	『関係法規』東洋療法学校協会編				
参考書	配布資料など				
成績評価	期末試験、授業態度などを総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。				
評価基準	同上				
到達目標	法学を理解して現場で活かし、患者や自身の権利を守ることができる医療人となる。				
留意点	全出席を心がけること。				
授業外に必要な学習内容	特になし。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、医療人として法規の知識を教授する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	
2	序論法とは何か。	
3	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律	
4	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律	
5	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律	
6	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律	
7	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律	
8	第2章 関係法規	
9	第2章 関係法規	
10	第2章 関係法規	
11	第2章 関係法規	
12	第2章 関係法規	
13	定期試験	

〈2025年度〉

授 業 要 項

科 目	あはき史	学科名	はりきゅう	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	1単位(13コマ)
教 員	児玉 農	領域	専門基礎	実務経験	治療院
教科書	東洋療法学校協会編:新版 東洋医学概論 医道の日本社 ・ 中川米造監修:医療概論 医歯薬出版株式会社				
参考書	特になし				
成績評価	定期試験などにより、総合的に行う。				
評価基準	学則に基づく。				
到達目標	東洋医学と西洋医学との相互理解を深める。				
留意点	偏った知識や理解、苦手意識を起こさせない。				
授業外に必要な学習内容	現代の医療との統合を踏まえ、研究及び論文をみることで東洋医学と西洋医学との溝を埋める。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、現代社会の現状と課題を踏まえて、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師のはたすべき役割について学ぶ。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	
2	東洋医学の概要	
3	東洋医学の概要	
4	東洋医学の概要	
5	東洋医学と現代医療との統合について	
6	東洋医学と現代医療との統合について	
7	東洋医学と現代医療との統合について	
8	東洋医学と現代医療との統合について	
9	東洋医学と現代医療との統合について	
10	東洋医学と現代医療との統合について	
11	東洋医学と現代医療との統合について	
12	期末試験	
13	試験解説	

2025年度

授 業 要 項

科 目	東洋医学概論 1	学科名	はりきゅう	履修年次	1 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位 (38 コマ)
教 員	竹内 健	領域	専門	実務経験	-
教科書	教科書検討小委員会著：新版 東洋医学概論株式会社医道の日本社				
参考書					
成績評価	定期試験により行う。但し、授業時間における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は当該科目について評価を受けることができない。				
評価基準	S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(60点未満)で表わし、C以上を合格とする。				
到達目標	授業内容を理解し、臨床現場で活かすことができる。				
留意点					
授業外に必要な学習内容	教科書、配布物を基に予習・復習を行うこと。				
授業内容	主に教科書を使用し、理解しておくべき内容を説明する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション、第1章 東洋医学の特徴 第1節 東洋医学の俗革	教科書・資料プリント
2	第1章 東洋医学の特徴 第2節 人体の見方	教科書・資料プリント
3	第1章 東洋医学の特徴 第2節 人体の見方	教科書・資料プリント
4	第1章 東洋医学の特徴 第3節 東洋医学的治療	教科書・資料プリント
5	第1章 東洋医学の特徴 第3節 東洋医学的治療 第4節 日本の東洋医学の現状	教科書・資料プリント
6	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神	教科書・資料プリント
7	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神	教科書・資料プリント
8	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神	教科書・資料プリント
9	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神	教科書・資料プリント
10	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神	教科書・資料プリント
11	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神	教科書・資料プリント
12	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神	教科書・資料プリント
13	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神	教科書・資料プリント
14	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神	教科書・資料プリント

15	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
16	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
17	授業復習	教科書・資料プリント
18	期末試験	学生証・筆記用具
19	試験解説(追・再試験)	期末試験問題用紙
20	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
21	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
22	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
23	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
24	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
25	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
26	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
27	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
28	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
29	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
30	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
31	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
32	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
33	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
34	第2章 生理と病理 第3節 経絡	教科書・資料プリント
35	第2章 生理と病理 第3節 経絡	教科書・資料プリント
36	授業復習	教科書・資料プリント
37	期末試験	学生証・筆記用具
38	試験解説(追・再試験)	期末試験問題用紙

2025年度

授 業 要 項

科 目	東洋医学概論 2	学科名	はりきゅう	履修年次	2 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位 (38 コマ)
教 員	竹内 健	領域	専門	実務経験	-
教科書	教科書検討小委員会著:新版 東洋医学概論株式会社医道の日本社				
参考書					
成績評価	定期試験により行う。但し、授業時間における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は当該科目について評価を受けることができない。				
評価基準	S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(60点未満)で表わし、C以上を合格とする。				
到達目標	授業内容を理解し、臨床現場で活かすことができる。				
留意点					
授業外に必要な学習内容	教科書、配布物を基に予習・復習を行うこと。				
授業内容	主に教科書を使用し、理解しておくべき内容を説明する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	第2章 生理と病理 第4節 病因病機	教科書・資料プリント
2	第2章 生理と病理 第4節 病因病機	教科書・資料プリント
3	第2章 生理と病理 第4節 病因病機	教科書・資料プリント
4	第3章 東洋医学の思想 第1節 陰陽学説	教科書・資料プリント
5	第3章 東洋医学の思想 第1節 陰陽学説	教科書・資料プリント
6	第3章 東洋医学の思想 第2節 五行学説	教科書・資料プリント
7	第3章 東洋医学の思想 第2節 五行学説	教科書・資料プリント
8	第3章 東洋医学の思想 第2節 五行学説	教科書・資料プリント
9	第4章四診 第1節望診	教科書・資料プリント
10	第4章四診 第2節聞診	教科書・資料プリント
11	第4章四診 第2節聞診	教科書・資料プリント
12	第4章四診 第3節問診	教科書・資料プリント
13	第4章四診 第3節問診	教科書・資料プリント

14	第4章四診 第3節問診	教科書・資料プリント
15	第4章四診 第3節問診	教科書・資料プリント
16	第4章四診 第3節問診	教科書・資料プリント
17	授業復習	教科書・資料プリント
18	期末試験	学生証・筆記用具
19	試験解説(追・再試験)	期末試験問題用紙
20	第4章四診 第4節切診	教科書・資料プリント
21	第4章四診 第4節切診	教科書・資料プリント
22	第4章四診 第4節切診	教科書・資料プリント
23	第4章四診 第4節切診	教科書・資料プリント
24	第4章四診 第4節切診	教科書・資料プリント
25	第4章四診 第5節四診合算	教科書・資料プリント
26	第5章弁証論治 第1節弁証	教科書・資料プリント
27	第5章弁証論治 第1節弁証	教科書・資料プリント
28	第5章弁証論治 第1節弁証	教科書・資料プリント
29	第5章弁証論治 第1節弁証	教科書・資料プリント
30	第5章弁証論治 第2節論治	教科書・資料プリント
31	第5章弁証論治 第2節論治	教科書・資料プリント
32	第5章弁証論治 第2節論治	教科書・資料プリント
33	第5章弁証論治 第2節論治	教科書・資料プリント
34	第5章弁証論治 第2節論治	教科書・資料プリント
35	第5章弁証論治 第3節弁証論治の進め方と証の決定	教科書・資料プリント
36	授業復習	教科書・資料プリント
37	期末試験	学生証・筆記用具
38	試験解説(追・再試験)	期末試験問題用紙

2025年度

授 業 要 項

科 目	経絡経穴概論 1	学科名	はりきゅう	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位 (38コマ)
教 員	角澤 隆	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	新版 経絡経穴概論 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社				
参考書	東洋医学の教科書 (ナツメ社)				
成績評価	出席率、授業態度、小テスト、定期試験(取穴を含む)などにより総合的に評価。				
評価基準	学則に準じて評価。				
到達目標	経絡・経穴の全体像を把握し、確実に各経穴の取穴部位が理解できる。				
留意点	学習者の興味を喚起し、学習意欲の向上に努める。				
授業外に必要な学習内容	前日までに前回の内容を復習して、小テストに対する準備を心掛けること。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、教科書を中心に各経穴を解説する。 また、体表解剖を理解しながら各経絡ごとに取穴を行い、小テストを実施する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	経絡・経穴の基礎 / 経絡・経穴の誕生	書画カメラ
2	臓腑の概要	〃
3	経絡の概要	〃
4	経穴の概要	〃
5	経穴の概要	〃
6	経穴の概要	〃
7	経穴の概要	〃
8	経脈・経穴 / 経穴の取り方に必要な用語	〃
9	十四経脈とその経穴	〃
10	督脈 概説	〃
11	督脈 概説・取穴	〃
12	任脈 概説	〃
13	任脈 概説・取穴	〃
14	手太陰肺経 概説	〃

15	手太陰肺経 概説・取穴	〃
16	手陽明大腸経 概説	〃
17	手陽明大腸経 概説・取穴	〃
18	取穴実技テスト（予定）	取穴シール
19	前期 期末試験 （筆記）	
20	前期期末試験返却・解説 ／ 前期 総合復習	書画カメラ
21	前期 総合復習	〃
22	足陽明胃経 概説	〃
23	足陽明胃経 概説	〃
24	足陽明胃経 概説	〃
25	足陽明胃経 概説・取穴	〃
26	足太陰脾経 概説	〃
27	足太陰脾経 概説	〃
28	足太陰脾経 概説・取穴	〃
29	手少陰心経 概説	〃
30	手少陰心経 概説・取穴	〃
31	手太陽小腸経 概説	〃
32	手太陽小腸経 概説	〃
33	手太陽小腸経 概説・取穴	〃
34	足太陽膀胱経 概説	〃
35	足太陽膀胱経 概説	〃
36	後期 期末試験 （筆記）	
37	取穴実技テスト	取穴シール
38	後期期末試験返却・解説	書画カメラ

2025年度

授 業 要 項

科 目	経絡経穴概論 2	学科名	はりきゅう	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位 (38コマ)
教 員	角澤 隆	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	新版 経絡経穴概論 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社				
参考書	東洋医学の教科書 (ナツメ社)				
成績評価	1年次同様に出席率、授業態度、小テスト、定期試験(取穴を含む)などにより総合的に評価。				
評価基準	学則に準じて評価。				
到達目標	経絡・経穴の全体像を把握し、確実に各経穴の取穴部位が理解できる。				
留意点	学習者の興味を喚起し、学習意欲の向上に努める。				
授業外に必要な学習内容	前日までに前回の内容を復習して、小テストに対する準備を心掛けること。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、教科書を中心に各経穴を解説する。 また、体表解剖を理解しながら各経絡ごとに取穴を行い、小テストを実施する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	足太陽膀胱経 概説	書画カメラ
2	足太陽膀胱経 概説	〃
3	足太陽膀胱経 概説	〃
4	足太陽膀胱経 概説・取穴	〃
5	足太陽膀胱経 概説・取穴	〃
6	足少陰腎経 概説	〃
7	足少陰腎経 概説	〃
8	足少陰腎経 概説・取穴	〃
9	手厥陰心包経 概説	〃
10	手厥陰心包経 概説・取穴	〃
11	手少陽三焦経 概説	〃
12	手少陽三焦経 概説	〃
13	手少陽三焦経 概説・取穴	〃
14	足少陽胆経 概説	〃

15	足少陽胆経 概説	〃
16	足少陽胆経 概説・取穴	〃
17	足少陽胆経 概説・取穴	〃
18	足厥陰肝経 概説	〃
19	足厥陰肝経 概説・取穴	〃
20	前期 期末試験 （筆記 or 取穴）	
21	前期 期末試験 （筆記 or 取穴）	
22	前期期末試験返却・解説	書画カメラ
23	十四経の再確認	〃
24	奇経	〃
25	奇経	〃
26	奇穴	〃
27	奇穴	〃
28	経絡経穴の現代的研究	〃
29	経絡経穴の現代的研究	〃
30	経筋	〃
31	経別	〃
32	取穴練習	取穴シール
33	取穴練習	〃
34	補習・まとめ	書画カメラ
35	補習・まとめ	〃
36	後期 期末試験 （筆記 or 取穴）	
37	後期 期末試験 （筆記 or 取穴）	
38	後期期末試験返却・解説	書画カメラ

2025年度

授 業 要 項

科 目	東洋医学臨床論（現代）	学科名	はりきゅう	履修年次	3 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位（38 コマ）
教 員	八重樫 久都	領域	専門分野	実務経験	鍼灸院
教科書	新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編) 東洋療法学校協会編 株式会社南江堂				
参考書	臨床医学各論 第2版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社				
成績評価	小テスト、前期試験、後期試験および授業態度などを総合して評価する。				
評価基準	学則規定に基づく。				
到達目標	西洋医学における各疾患の基礎や治療法について理解し、鍼灸臨床にいきる知識を身につける。				
留意点	定期的に小テストを行う。解剖学、生理学、経絡経穴を理解しているものとして授業を進める。				
授業外に必要な学習内容	授業に臨む前に解剖学、生理学、経絡経穴の復習をしっかりと行うこと。 復習として教科書の熟読や授業資料の見直しをすること。 小テストも成績評価に入るため、その都度復習を行うこと。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院や大学病院での勤務経験を踏まえ、鍼灸臨床でみられる代表的な疾患の病態・症状・診断法を理解し、鍼灸治療の適不適の判断および各疾患に対する治療方針、治療法について西洋医学的な考え方を学ぶ。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	第1章 総論 第1節 鍼灸臨床	
2	第1章 総論 第1節 鍼灸臨床	
3	第2章 各論 第1節 疼痛（概論）	
4	第2章 各論 第1節 疼痛（頭痛）	
5	第2章 各論 第1節 疼痛（顔面痛、関節痛）	
6	第2章 各論 第1節 疼痛（頸肩腕痛）	
7	第2章 各論 第1節 疼痛（上肢痛・肩関節痛）	
8	第2章 各論 第1節 疼痛（腰下肢痛・腰痛）	
9	第2章 各論 第1節 疼痛（下肢痛・膝痛）	
10	第2章 各論 第1節 疼痛（胸痛）	
11	第2章 各論 第1節 疼痛（腹痛）	
12	第2章 各論 第2節 臓腑に関連する症候（肝系統）	
13	第2章 各論 第2節 臓腑に関連する症候（肝系統）	
14	第2章 各論 第2節 臓腑に関連する症候（心系統）	

15	第2章 各論 第2節 臓腑に関連する症候（心系統）	
16	第2章 各論 第2節 臓腑に関連する症候（脾系統）	
17	第2章 各論 第2節 臓腑に関連する症候（脾系統）	
18	第2章 各論 第2節 臓腑に関連する症候（脾系統）	
19	前期本試験	
20	第2章 各論 第2節 臓腑に関連する症候（肺系統）	
21	第2章 各論 第2節 臓腑に関連する症候（肺系統）	
22	第2章 各論 第2節 臓腑に関連する症候（腎系統）	
23	第2章 各論 第2節 臓腑に関連する症候（腎系統）	
24	第2章 各論 第2節 臓腑に関連する症候（腎系統）	
25	第2章 各論 第3節 全身の症候	
26	第2章 各論 第3節 全身の症候	
27	第2章 各論 第3節 全身の症候	
28	第2章 各論 第4節 その他の症候	
29	第2章 各論 第4節 その他の症候	
30	第2章 各論 第5節 女性特有の症	
31	第2章 各論 第5節 女性特有の症候	
32	第2章 各論 第5節 女性特有の症候	
33	第2章 各論 第6節 小児特有の症候	
34	第2章 各論 第6節 小児特有の症候	
35	第2章 各論 第7節 老年特有の症候	
36	後期本試験	
37	試験解説・総復習	
38	国家試験対策	

授 業 要 項

科 目	東洋医学臨床論(東洋)	学科名	はりきゅう	履修年次	3 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位(38 コマ)
教 員	竹内 健	領域	専門	実務経験	-
教科書	新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編) 株式会社南江堂				
参考書					
成績評価	定期試験により行う。但し、授業時間における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は当該科目について評価を受けることができない。				
評価基準	S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(60点未満)で表わし、C以上を合格とする。				
到達目標	授業内容を理解し、臨床現場で活かすことができる。				
留意点					
授業外に必要な学習内容	教科書、配布物を基に予習・復習を行うこと。				
授業内容	主に教科書を使用し、理解しておくべき内容を説明する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	第 1 章 総論 第 1 節 鍼灸臨床	教科書・資料プリント
2	第 1 章 総論 第 1 節 鍼灸臨床	教科書・資料プリント
3	第 1 章 総論 第 1 節 鍼灸臨床	教科書・資料プリント
4	第2章 各論 第1節 疼痛	教科書・資料プリント
5	第2章 各論 第1節 疼痛	教科書・資料プリント
6	第2章 各論 第1節 疼痛	教科書・資料プリント
7	第2章 各論 第1節 疼痛	教科書・資料プリント
8	第2章 各論 第1節 疼痛	教科書・資料プリント
9	第2章 各論 第1節 疼痛	教科書・資料プリント
10	第2章 各論 第1節 疼痛	教科書・資料プリント
11	第2章 各論 第1節 疼痛	教科書・資料プリント
12	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候	教科書・資料プリント
13	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候	教科書・資料プリント
14	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候	教科書・資料プリント

15	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候	教科書・資料プリント
16	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候	教科書・資料プリント
17	授業復習	教科書・資料プリント
18	期末試験	学生証・筆記用具
19	試験解説(追・再試験)	期末試験問題用紙
20	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候	教科書・資料プリント
21	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候	教科書・資料プリント
22	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候	教科書・資料プリント
23	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候	教科書・資料プリント
24	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候	教科書・資料プリント
25	第2章 各論 第3節 全身の症候	教科書・資料プリント
26	第2章 各論 第3節 全身の症候	教科書・資料プリント
27	第2章 各論 第3節 全身の症候	教科書・資料プリント
28	第2章 各論 第4節 その他の症候	教科書・資料プリント
29	第2章 各論 第4節 その他の症候	教科書・資料プリント
30	第2章 各論 第5節 女性特有の症候	教科書・資料プリント
31	第2章 各論 第5節 女性特有の症候	教科書・資料プリント
32	第2章 各論 第5節 女性特有の症候	教科書・資料プリント
33	第2章 各論 第6節 小児特有の症候	教科書・資料プリント
34	第2章 各論 第6節 小児特有の症候	教科書・資料プリント
35	授業復習	教科書・資料プリント
36	授業復習	教科書・資料プリント
37	期末試験	学生証・筆記用具
38	試験解説(追・再試験)	期末試験問題用紙

2025年度

授 業 要 項

科 目	鍼灸治効理論	学科名	はりきゅう	履修年次	3 年次
		教授法	講義	単位数コマ	1 単位 (13 コマ)
教 員	林 陽子	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	『はりきゅう理論第3版』 東洋療法学校協会編 医道の日本社				
参考書	『生理学 第3版』 東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
成績評価	出席、授業態度、試験等により評価する。				
評価基準	学校規定に準ずる。				
到達目標	鍼灸刺激に対して生体ではどのような反応が起こるのかを理解する。				
留意点	基礎的な知識を定着させ、鍼灸施術の行う際に役立てるようにする。				
授業外に必要な学習内容	予習と復習、練習問題で理解を深める。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院等での勤務経験を踏まえ、鍼灸刺激の種類と神経や免疫、ホメオスタシスなど、身体全体と細胞レベルでの微細な反応を総合的に学ぶ。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	p. p. 47-54 第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識 1. はじめに 2. 生体の調節 1) 運動系の調節	
2	p. p. 54-63 2) 内臓系の調節	
3	p. p. 63-69 3. 感覚 1) 体性感覚 (1) はじめに (2) 総論	
4	p. p. 69-76 (3) 痛覚	
5	p. p. 76-86 (4) 温度覚 (5) 触覚・圧覚・振動覚 (6) 固有感覚(深部感覚) 2) 内臓感覚 4. 熱傷 1) 熱傷の病理	
6	p. p. 86-96 2) 熱傷と分類 3) 熱傷と灸 5. 体表の反応 1) はじめに 2) 体表の反応 3) トリガーポイント 第9章 鍼灸治効機序 1. はじめに 2. 鍼鎮痛 1) 鍼鎮痛の概要	
7	p. p. 97-104 2) 内因性痛覚抑制系 ー全身性鎮痛ー 3) 内因性痛覚抑制系 ー脊髄分節性鎮痛ー 4) 末梢性鎮痛 5) 鍼鎮痛の個人差	
8	p. p. 104-115 3. 循環系と鍼灸 4. 運動系と鍼 5. 消化器系と鍼 1) ヒト消化管機能障害に対する鍼治療 2) 消化管機能と鍼	
9	p. p. 115-128 6. 泌尿器系と鍼 7. リラクゼーションと鍼灸 8. 生体防御系と鍼灸	
10	p. p. 129-137 第10章 鍼灸治効機序と臨床の接点 1. 刺激部位 2. 刺激入力 3. 鍼灸刺激による治効機序	
11	自習：練習問題、復習	
12	定期試験	
13	解答解説	

2025年度

授 業 要 項

科 目	触察解剖（取穴含む）	学科名	はりきゅう学科	履修年次	1年次
		教授法	実技	単位数コマ	2単位（30コマ）
教 員	角澤 隆	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	機能解剖学的 触診技術 メジカルビュー社 / 『経絡経穴概論』教科書執筆小委員会著 医道の日 本社				
参考書	特になし				
成績評価	各試験・出席・提出物などを総合して判断する。				
評価基準	学則に準じて評価。				
到達目標	体表から触れられる解剖学的指標の知識を身につけると共に、経絡を観察し取穴・切経を習得する。				
留意点	学習者の興味を喚起し、学習意欲の向上に努める。				
授業外に必要な 学習内容	前日までに前回の内容を復習をして、触察方法のトレーニングを積み重ねること。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、授業の前半は講義形式、後半は学生同士ペアになり、お互いに人体各部位を体表から触れて解剖学的知識を身につけると同時に、経穴部位も確認する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	書画カメラ
2	脊柱・腰部触察	〃
3	棘突起の診方	〃
4	棘突起・肩甲骨・腸骨触察	〃
5	棘突起・肩甲骨・腸骨・背部の触察	〃
6	胸骨体・鎖骨触察	〃
7	胸部触察の復習	〃
8	背部触察	〃
9	上腕部触察	〃
10	上腕部・前腕部触察	〃
11	前腕部触察	〃
12	手関節部触察	〃
13	上肢の復習	〃
14	頸部・肩部触察	〃
15	〃	〃

16	顔面部・頭部触察	〃
17	股関節・臀部触察	〃
18	〃	〃
19	前期末テスト	〃
20	膝蓋骨触察	〃
21	大腿部触察	〃
22	下腿部触察	〃
23	足部触察	〃
24	背部・側胸部触察	〃
25	後仙骨孔部触察	〃
26	総合復習①	〃
27	総合復習②	〃
28	総合復習③	〃
29	後期末テスト	〃
30	まとめ	〃

2025年度

授 業 要 項

科 目	診察法（現代医学的）	学科名	はりきゅう	履修年次	2 年次
		教授法	実技	単位数コマ	2 単位（ 30 コマ）
教 員	西岡 岳之	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	1.「臨床医学総論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株) 2.「臨床医学各論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株)				
参考書	1. 開業鍼灸師のための診察法と治療法1～5;出端昭男著(医道の日本社) 2. 教材・資料プリント配布				
成績評価	出席状況、授業態度などから総合評価し、学校の定める試験評価に準ずる。				
評価基準	同上				
到達目標	各疾患の病態生理を理解し、医療面接が的確に行える。 徒手検査を正しく実施し、陽性所見、臨床的意義を述べる事が出来る。				
留意点	1)はり及びきゅうの臨床における基本的臨床技能として重要な位置にある医療面接を習得するために、医療面接・コミュニケーション技法を理解する。 2)施術者としてお互いの立場を尊重した人間関係を構築して、適切な医療面接を習得するために、患者役と面接者役となってロールプレイを行い、医療面接技法を理解する。 3)はり及びきゅうの臨床に必要な身体診察を実践するために、身体診察技能を修得する。				
授業外に必要な学習内容	整形外科的疾患の病態生理の予習・復習				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ授業を行う。 はり臨床において、病態的的確な鑑別が必要である。その上で医療面接と身体診察が的確に行えることが重要である。本講座では、患者の主訴から病態把握を行い医療面接と身体診察の目的と意義並びにそれらの技術の基本を学んでいく。				

授業内容

日 程	内 容		使用機材等
1	授業ガイダンス 腰痛の診察①	主訴に対する主要疾患の特徴が説明できる。 主訴に対する問診事項の意義を理解して聴取できる。 主訴に対する身体診察の意義を理解して実践できる。 身体診察の陽性所見と臨床的意義を説明できる。 上記内容をロールプレイにて実践できる。	PC・プロジェクター
2	腰痛の診察②		検査道具一式
3	腰痛の診察③		検査道具一式
4	腰下肢痛の診察④		検査道具一式
5	腰下肢痛の診察⑤		検査道具一式
6	頸上肢痛の診察①	主訴に対する主要疾患の特徴が説明できる。 主訴に対する問診事項の意義を理解して聴取できる。 主訴に対する身体診察の意義を理解して実践できる。 身体診察の陽性所見と臨床的意義を説明できる。 上記内容をロールプレイにて実践できる。	検査道具一式
7	頸上肢痛の診察②		検査道具一式
8	頸上肢痛の診察③		検査道具一式
9	頸上肢痛の診察④		検査道具一式
10	まとめ		検査道具一式
11	実技期末試験①		検査道具一式
12	実技期末試験フィードバック		検査道具一式

13	膝関節痛の診察①	主訴に対する主要疾患の特徴が説明できる。 主訴に対する問診事項の意義を理解して聴取できる。 主訴に対する身体診察の意義を理解して実践できる。 身体診察の陽性所見と臨床的意義を説明できる。 上記内容をロールプレイにて実践できる。	検査道具一式
14	膝関節痛の診察②		検査道具一式
15	膝関節痛の診察③		検査道具一式
16	膝関節痛の診察④		検査道具一式
17	肩関節痛の診察①	主訴に対する主要疾患の特徴が説明できる。 主訴に対する問診事項の意義を理解して聴取できる。 主訴に対する身体診察の意義を理解して実践できる。 身体診察の陽性所見と臨床的意義を説明できる。 上記内容をロールプレイにて実践できる。	検査道具一式
18	肩関節痛の診察②		検査道具一式
19	肩関節痛の診察③		検査道具一式
20	肩関節痛の診察④		検査道具一式
21	まとめ		検査道具一式
22	実技期末試験②		検査道具一式
23	実技期末試験フィードバック 医療面接の基礎 臨床推論概論	医療面接、臨床推論演習の概要を理解できる。	
24	臨床推論演習① (膝関節痛)	【グループワーク】 腰痛・腰下肢痛、頸上肢痛、膝関節痛、肩関節痛それぞれの現病歴の聴取事項、鑑別が必要な徒手検査項目を列挙できる。診察所見から病態を推察し、はき施術の適否を鑑別し、治療方針を列挙することができる。 安全な施術を実践できる。	
25	膝関節痛・肩関節痛へのアプローチ		
26	臨床推論演習② (肩関節痛)		
27	膝関節痛・肩関節痛へのアプローチ		
28	臨床推論演習③ (腰痛・腰下肢痛)		
29	頸上肢痛・腰下肢痛へのアプローチ		
30	臨床推論演習④ (頸上肢痛)		

2025年度

授 業 要 項

科 目	診察法（東洋医学的）	学科名	はりきゅう	履修年次	3 年次
		教授法	実技	単位数コマ	2 単位 (30 コマ)
教 員	小林 郁代	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書					
参考書	『積聚治療』・『続・積聚治療』 小林詔司著 医道の日本社 / 『治療家の手の作り方』 形井秀一著 六然社				
成績評価	出欠席、小テスト、実技試験、提出物等				
評価基準	欠席しないこと				
到達目標	東洋医学の観点に立った診断方法・治療方法を身につける				
留意点					
授業外に必要な学習内容	実技練習				
授業内容	鍼灸師としての鍼灸院での勤務経験を踏まえ、はき実技・臨床実習と連関し、四診法を教授する。腹診を中心とした治療方法とその概念を習得する				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	東洋医学の身体診察について	
2	施灸施鍼練習 、 切診の方法1	
3	施灸施鍼練習 、 切診の方法 2	
4	脈診 1 脈状診と脈差診	
5	脈診 2 六部定位脈診1	
6	脈診 3 六部定位脈診 2	
7	脈診 4 六部定位脈診 3	
8	腹診 1 五蔵配当	
9	腹診 2 腹診の方法	
10	腹診 3 腹証の立て方	
11	腹診 4 腹証に応じた治療 1	
12	腹診 5 腹証に応じた治療 2	

13	腹診 6 腹証に応じた治療 3	
14	前期試験 1	
15	前期試験 2	
16	問診の要点 カルテの書き方	
17	要穴を用いた治療・三角灸	
18	要穴を用いた治療・三角灸	
19	要穴を用いた治療・三角灸	
20	要穴を用いた治療・三角灸	
21	要穴を用いた治療・糸状灸	
22	要穴を用いた治療・糸状灸	
23	要穴を用いた治療・糸状灸	
24	要穴を用いた治療・糸状灸	
25	背部督脈を用いる治療	
26	背部督脈を用いる治療	
27	後期試験 1	
28	後期試験 2	
29	季肋部を用いた治療	
30	局所の気血に対する治療	

2025年度

授 業 要 項

科 目	社会はりきゅう学	学科名	はりきゅう	履修年次	3 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位 (38 コマ)
教 員	林 陽子・奥田 望・古川 清裕・竹内 健	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	教科書執筆小委員会著:社会あはき学 株式会社医道の日本社				
参考書	総合学習2の教科書に加え、衛生学・公衆衛生学、リハビリテーション医学、医療概論、東洋医学臨床論など				
成績評価	出席、提出物などを総合して評価する。				
評価基準	出席、提出物など総合し、学校の定める成績評価に準ずる。				
到達目標	授業内容を現場で活かし、社会に貢献することができる医療人となる。				
留意点	この科目の内容は特に卒後において重要なものとなる。				
授業外に必要な学習内容	普段から健康課題に関心を持つ。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院等での勤務経験を踏まえ、理解しておくべき内容を主に教科書を使用して説明し、今まで学習した内容を含めて総合的に学習する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	
2	第 1 章 総論	
3	第 2 章 あはき師を取り巻く環境	
4	第 2 章 あはき師を取り巻く環境	
5	第 3 章 地域で期待されるあはき師の業務	
6	第 4 章 現在社会におけるあはき師の役割	
7	第 4 章 現在社会におけるあはき師の役割	
8	第 4 章 現在社会におけるあはき師の役割	
9	第 4 章 現在社会におけるあはき師の役割	
10	第 4 章 現在社会におけるあはき師の役割	
11	第 4 章 現在社会におけるあはき師の役割	
12	第 4 章 現在社会におけるあはき師の役割	
13	第 4 章 現在社会におけるあはき師の役割	
14	第 4 章 現在社会におけるあはき師の役割	
15	第 4 章 現在社会におけるあはき師の役割	
16	第 4 章 現在社会におけるあはき師の役割	

17	前期末試験	
18	解答解説 第4章 現在社会におけるあはき師の役割	
19	第4章 現在社会におけるあはき師の役割	
20	第4章 現在社会におけるあはき師の役割	
21	第4章 現在社会におけるあはき師の役割	
22	第4章 現在社会におけるあはき師の役割	
23	第4章 現在社会におけるあはき師の役割	
24	第4章 現在社会におけるあはき師の役割	
25	第5章 現在社会におけるあはき師の役割	
26	第5章 現在社会におけるあはき師の役割	
27	第5章 現在社会におけるあはき師の役割	
28	第3章 地域で期待されるあはき師の業務 第4章 現在社会におけるあはき師の役割	
29	第3章 地域で期待されるあはき師の業務 第5章 現在社会におけるあはき師の役割	
30	第3章 地域で期待されるあはき師の業務 第4章 現在社会におけるあはき師の役割	
31	第3章 地域で期待されるあはき師の業務 第5章 現在社会におけるあはき師の役割	
32	第3章 地域で期待されるあはき師の業務 第4章 現在社会におけるあはき師の役割	
33	後期末試験	
34	解答解説 全体の復習	
35	全体の復習	
36	全体の復習	
37	全体の復習	
38	全体の復習	

2025年度

授 業 要 項

科 目	はり・きゅう実習 1	学科名	はりきゅう	履修年次	1 年次
		教授法	実習	単位数コマ	2 単位 (30 コマ)
教 員	奥田 望	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	『はりきゅう実技 基礎編』東洋療法学校協会編 医道の日本社				
参考書	『はりきゅう理論』東洋療法学校協会編 医道の日本社 『治療家の手の作り方』六然社 など				
成績評価	学則規定に基づく。				
評価基準	定期試験、出欠席、提出物などの総合評価とし、学則に定める試験評価に準ずる。				
到達目標	基礎的な知識と刺鍼技術を習得する。鍼を体表の指標・経穴に従って適切・安全に刺入できる。 身につけた技術をもとに東洋医学の治療感について学ぶ。				
留意点	全出席を基本とする。授業の進捗状態で内容に変更があります。				
授業外に必要な学習内容	練習は継続して行うこと。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、衛生管理・リスク管理を身につけ、鍼に関する基礎知識・技術について学ぶ。 銀鍼中心に物・自分・対人などで基礎練習を行う。 人の診方、触り方、反応の取り方を学び、治療や臨床に結び付けようとする。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション リスク管理・感染対策・片手挿管	
2	鍼の基礎知識・刺鍼の方式と術式 片手挿管	
3	特殊鍼法・鍼の基本操作 鍼枕への刺鍼	
4	鍼の基本操作 鍼枕への刺鍼	
5	鍼の基本操作 鍼枕・ロールペーパーへの刺鍼	
6	鍼の基本操作 鍼枕・ロールペーパー、きり板への刺鍼	
7	鍼の基本操作・鍼枕への刺鍼 浮きもの通し	
8	鍼の基本操作 自分への刺鍼	
9	鍼の基本操作 自分への刺鍼	
10	鍼の基本操作 自分への刺鍼	
11	鍼の基本操作 自分・対人への刺鍼	
12	定期試験	
13	定期試験・ふりかえり	

14	鉋の基本操作 対人への刺鉋	
15	鉋の基本操作 対人への刺鉋	
16	鉋の基本操作 対人への刺鉋	
17	鉋の基本操作 対人への刺鉋	
18	鉋の基本操作 対人への刺鉋	
19	鉋の基本操作 対人への刺鉋	
20	鉋の基本操作 対人への刺鉋	
21	鉋の基本操作 対人への刺鉋	
22	鉋の基本操作 対人への刺鉋	
23	鉋の基本操作 対人への刺鉋	
24	鉋の基本操作 対人への刺鉋	
25	定期試験	
26	定期試験・ふりかえり	
27	鉋の基本操作 対人への刺鉋	
28	鉋の基本操作 対人への刺鉋	
29	鉋の基本操作 対人への刺鉋	
30	鉋の基本操作 対人への刺鉋	

2025年度

授 業 要 項

科 目	はり・きゅう実習2	学科名	はりきゅう	履修年次	1 年次
		教授法	実習	単位数コマ	2 単位 (30 コマ)
教 員	奥田 望	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	『はりきゅう実技 基礎編』東洋療法学校協会編 医道の日本社				
参考書	『はりきゅう理論』東洋療法学校協会編 医道の日本社 『治療家の手の作り方』六然社 など				
成績評価	学則規定に基づく。				
評価基準	定期試験、出欠席、提出物などの総合評価とし、学則に定める試験評価に準ずる。				
到達目標	基礎的な知識と刺鍼技術を習得する。灸を体表の指標・経穴に従って適切・安全に施灸できる。 身につけた技術をもとに東洋医学の治療感について学ぶ。				
留意点	全出席を基本とする。授業の進捗状態で内容に変更があります。				
授業外に必要な学習内容	練習は継続して行うこと。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、衛生管理・リスク管理を身につけ、灸に関する基礎知識・技術について学ぶ。 米粒大を中心に物・自分・対人などで基礎練習を行う。 人の診方、触り方、反応の取り方を学び、治療や臨床に結び付くようにする。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション・リスク管理・感染対策	
2	灸の基礎知識・灸術の種類 艾炷の作製（ゴム板上・無点火）	
3	灸の基礎知識・灸術の種類 艾炷の作製（ゴム板上・無点火）	
4	灸の基礎知識・灸術の種類 艾炷の作製（ゴム板上・無点火）	
5	艾炷の作製（ゴム板上・無点火・点火）	
6	艾炷の作製（ゴム板上・無点火・点火）	
7	艾炷の作製（ゴム板上・無点火・点火）	
8	艾炷の作製 自分への施灸	
9	艾炷の作製 自分への施灸	
10	艾炷の作製 自分への施灸	
11	艾炷の作製 自分・対人への施灸	
12	定期試験	
13	定期試験・ふりかえり	

14	艾炷の作製 対人への施灸	
15	艾炷の作製 対人への施灸	
16	艾炷の作製 対人への施灸	
17	艾炷の作製 対人への施灸	
18	艾炷の作製 対人への施灸	
19	艾炷の作製 対人への施灸	
20	艾炷の作製 対人への施灸	
21	艾炷の作製 対人への施灸	
22	艾炷の作製 対人への施灸	
23	艾炷の作製 対人への施灸	
24	艾炷の作製 対人への施灸	
25	艾炷の作製 対人への施灸	
26	定期試験	
27	定期試験・ふりかえり	
28	艾炷の作製 対人への施灸	
29	艾炷の作製 対人への施灸	
30	艾炷の作製 対人への施灸	

2025年度

授 業 要 項

科 目	はり・きゅう実習 3	学科名	はりきゅう	履修年次	2 年次
		教授法	実習	単位数コマ	1 単位 (15 コマ)
教 員	奥 田 望	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	『はりきゅう実技 基礎編』東洋療法学校協会編 医道の日本社				
参考書	『はりきゅう理論』東洋療法学校協会編 医道の日本社 『治療家の手の作り方』六然社 など				
成績評価	学則規定に基づく。				
評価基準	定期試験、出欠席、提出物などの総合評価とし、学則に定める試験評価に準ずる。				
到達目標	基礎的な知識と治療技術を習得する。鍼・灸を体表の指標・経穴に従って適切・安全に施術できる。 身につけた技術をもとに東洋医学の治療感について学ぶ。				
留意点	全出席を基本とする。授業の進捗状態で内容に変更があります。				
授業外に必要な学習内容	練習は継続して行うこと。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、衛生管理・リスク管理を身につけ、施術に関する基礎知識・技術について学ぶ。 対人で基礎・応用的な施術練習を行う。 人の診方、触り方、反応の取り方を学び、治療や臨床に結び付けようとする。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション・リスク管理・感染症対策	
2	鍼・灸の基礎操作 自分・対人への施術	
3	鍼・灸の基礎操作 自分・対人への施術	
4	鍼・灸の基礎操作 自分・対人への施術	
5	鍼・灸の基礎操作 自分・対人への施術	
6	鍼・灸の基礎操作 自分・対人への施術	
7	鍼・灸の基礎操作 自分・対人への施術	
8	鍼・灸の基礎操作 自分・対人への施術	
9	鍼・灸の基礎操作 自分・対人への施術	
10	鍼・灸の基礎操作 自分・対人への施術	
11	鍼・灸の基礎操作 自分・対人への施術	
12	鍼・灸の基礎操作 自分・対人への施術	
13	定期試験	
14	定期試験	
15	ふりかえり	

<2025年度>

授 業 要 項

科 目	はりきゅう実習 4	学科名	はりきゅう	履修年次	2年次
		教授法	実習	単位数コマ	2単位 (30コマ)
教 員	児玉 農	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	鍼通電療法テクニック 改定 第3版 医道の日本社				
参考書	鍼灸臨床における医療面接 医道の日本社				
成績評価	期末試験・提出物などを加味して評価する。				
評価基準	定期試験、出欠席、提出物などの総合評価とし、学則に定める試験評価に準ずる。				
到達目標	低周波鍼通電療法の技術習得は勿論のこと、現代医学的な鑑別診断が出来るようになる。				
留意点	刺鍼部位によってはハーフパンツの用意などの指示がある。				
授業外に必要な学習内容	解剖学 I で学んだ運動器系に関する指標となる部位の名称や筋肉の走行をなどがわかり、立体的にイメージできる。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ授業を行う。 現代医学的見地からの疾病観や治効理論から鑑別診断と治療を行うことが出来る。当然それに付随する理学検査や医療面接等の技術習得も、その臨床的意義も踏まえて習得する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	授業ガイダンス	
2	下腿への低周波鍼通電療法①	
3	下腿への低周波鍼通電療法②	
4	下腿への低周波鍼通電療法③	
5	下腿への低周波鍼通電療法④	
6	大腿・臀部への低周波鍼通電療法①	
7	大腿・臀部への低周波鍼通電療法②	
8	大腿・臀部への低周波鍼通電療法③	
9	大腿・臀部への低周波鍼通電療法④	
10	大腿・臀部への低周波鍼通電療法⑤	
11	上肢への低周波鍼通電療法①	
12	上肢への低周波鍼通電療法②	
13	上肢への低周波鍼通電療法③	

14	上肢への低周波鍼通電療法④	
15	上肢への低周波鍼通電療法⑤	
16	前期期末試験 1	
17	医療面接の基礎 医療面接実技	
18	頸・肩関節周囲への低周波鍼通電療法①	
19	頸・肩関節周囲への低周波鍼通電療法②	
20	頸・肩関節周囲への低周波鍼通電療法③	
21	頸・肩関節周囲への低周波鍼通電療法④	
22	腰臀部疾患への治療法 1	
23	腰臀部疾患への治療法 2	
24	腰臀部疾患への治療法 3	
25	腰臀部疾患への治療法 4	
26	肘関節・手関節の治療法 1	
27	肘関節・手関節の治療法 2	
28	試験概要説明 試験準備	
29	後期期末試験 1	
30	後期期末試験 2	

2025年度

授 業 要 項

科 目	はり・きゅう実習 5	学科名	はりきゅう	履修年次	2年次
		教授法	実習	単位数コマ	2単位(30コマ)
教 員	角澤 隆	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	『はりきゅう実技基礎編』・『経絡経穴概論』・『東洋医学概論』 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社				
参考書	特になし				
成績評価	各試験・出席・提出物などを総合して判断する。				
評価基準	学則に準じて評価。				
到達目標	東洋医学的診断法及び弁証技法を駆使して各病症を理解し処方ができる。				
留意点	学習者の興味を喚起し、学習意欲の向上に努める。				
授業外に必要な学習内容	前日までに前回の内容を復習をして、実技練習を積み重ねること。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授するす。 ・東洋医学的診断と補瀉技術について学ぶ。 ・各病症に対するアプ°ローチ方法について学ぶ。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	書画カメラ
2	補寫手技①	〃
3	補寫手技②	〃
4	補寫手技③	〃
5	補寫手技④	〃
6	補寫手技⑤	〃
7	補寫手技⑥	〃
8	補寫手技⑦	〃
9	補寫手技⑧	〃
10	補寫手技⑨	〃
11	補寫手技⑩	〃
12	症例に基づいた治療法	〃
13	症例に基づいた治療法	〃
14	テスト対策練習	〃
15	前期末テスト	〃

16	前期末テスト	〃
17	前期末テスト	〃
18	頭皮鍼	〃
19	頭皮鍼	〃
20	頭皮鍼	〃
21	頭皮鍼	〃
22	症例に基づいた治療法	〃
23	症例に基づいた治療法	〃
24	症例に基づいた治療法	〃
25	症例に基づいた治療法	〃
26	症例に基づいた治療法	〃
27	テスト対策練習	〃
28	後期末テスト	〃
29	後期末テスト	〃
30	後期末テスト	〃

2025年度

授 業 要 項

科 目	はり・きゅう実習 6	学科名	はりきゅう	履修年次	2 年次
		教授法	実習	単位数コマ	1 単位 (15 コマ)
教 員	奥田 望	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	『はりきゅう実技 基礎編』東洋療法学校協会編 医道の日本社				
参考書	『はりきゅう理論』東洋療法学校協会編 医道の日本社 『治療家の手の作り方』六然社 など				
成績評価	学則規定に基づく。				
評価基準	定期試験、出欠席、提出物などの総合評価とし、学則に定める試験評価に準ずる。				
到達目標	基礎的な知識と治療技術を習得する。鍼・灸を体表の指標・経穴に従って適切・安全に施術できる。 身につけた技術をもとに東洋医学の治療感について学ぶ。				
留意点	全出席を基本とする。授業の進捗状態で内容の変更あり。				
授業外に必要な学習内容	練習は継続して行うこと。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、衛生管理・リスク管理を身につけ、施術に関する基礎知識・技術について学ぶ。 対人で基礎・応用的な施術練習を行う。 人の診方、触り方、反応の取り方を学び、治療や臨床に結び付くようにする。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション・リスク管理・感染症対策	
2	鍼・灸の基礎操作 自分・対人への施術	
3	鍼・灸の基礎操作 自分・対人への施術	
4	鍼・灸の基礎操作 自分・対人への施術	
5	鍼・灸の基礎操作 自分・対人への施術	
6	鍼・灸の基礎操作 自分・対人への施術	
7	鍼・灸の基礎操作 自分・対人への施術	
8	鍼・灸の基礎操作 自分・対人への施術	
9	鍼・灸の基礎操作 自分・対人への施術	
10	鍼・灸の基礎操作 自分・対人への施術	
11	鍼・灸の基礎操作 自分・対人への施術	
12	鍼・灸の基礎操作 自分・対人への施術	
13	定期試験	
14	定期試験	
15	ふりかえり	

2025年度

授 業 要 項

科 目	はり・きゅう実習 7	学科名	はりきゅう	履修年次	3 年次
		教授法	実習	単位数コマ	2 単位 (30 コマ)
教 員	小林 郁代	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書					
参考書	『積聚治療』・『続・積聚治療』 小林詔司著 医道の日本社				
成績評価	出欠席、小テスト、実技試験、提出物等、学期末試験				
評価基準					
到達目標	東洋医学の観点に立った診断方法・治療方法を身につける				
留意点	欠席しないこと				
授業外に必要な学習内容	実技練習				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、東洋診察、臨床実習と連携をとり、腹診を中心とした治療方法を教授する				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	施灸施鍼練習、気の捉え方①	
2	気の捉え方②	
3	気の捉え方③	
4	脈診実習 1	
5	脈診実習2	
6	脈診実習 3 ・ 三角灸の方法	
7	脈診実習 4 ・ 三角灸練習	
8	腹診実習 1 ・ 三角灸練習 2	
9	腹診実習 2 ・ 三角灸練習 3	
10	前期・鍼灸実技試験	
11	前期・鍼灸実技試験	
12	腹診実習 3 ・ 糸状灸の方法	
13	腹診実習 4 ・ 糸状灸練習	

14	腹診実習 5 ・ 系状灸練習 2	
15	腹診実習 7	
16	外来実習	
17	外来実習	
18	外来実習	
19	外来実習	
20	外来実習	
21	外来実習	
22	外来実習	
23	外来実習	
24	外来実習	
25	外来実習	
26	外来実習	
27	外来実習	
28	外来実習	
29	外来実習	
30	外来実習	

2025年度

授 業 要 項

科 目	はり・きゅう実習 8	学科名	はりきゅう	履修年次	3 年次
		教授法	実技	単位数コマ	2 単位 (30 コマ)
教 員	深澤 栄一	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	はりきゅう実技(基礎編)(医歯薬出版)				
参考書					
成績評価	学期末試験				
評価基準	学期末試験の60%以上で単位取得とする				
到達目標	基礎のはりきゅうの技術の習得と応用を習得し、1人の患者を治療できるようにする				
留意点					
授業外に必要な学習内容					
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、実技室において、パワーポイントによる病態の説明、ベットサイドにおける技術を反復練習し、誰でも治療指針が立てられるようにする				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	ガイダンス、	
2	刺入練習、施灸練習、腰痛症の病態説明	
3	刺入練習、施灸練習、腰痛症の検査法	
4	刺入練習、施灸練習、腰痛症の治療の実際	
5	刺入練習、施灸練習、坐骨神経痛の病態説明	
6	刺入練習、施灸練習、坐骨神経痛の治療の実際	
7	刺入練習、施灸練習、坐骨神経痛の治療の実際	
8	刺入練習、施灸練習、頸腕症候群の病態説明	
9	刺入練習、施灸練習、頸腕症候群の検査法	
10	刺入練習、施灸練習、頸腕症候群の治療の実際	
11	刺入練習、施灸練習、五十肩の病態説明	
12	刺入練習、施灸練習、五十肩の検査法	
13	刺入練習、施灸練習、五十肩の治療の実際	
14	鍼灸療養費の取り扱い方法 1	
15	鍼灸療養費の取り扱い方法 2	

16	刺入練習、施灸練習、 上肢痛の病態生理	
17	刺入練習、施灸練習、 上肢痛の検査法	
18	刺入練習、施灸練習、 上肢痛の治療の実際	
19	刺入練習、施灸練習、 変形性膝関節症の病態生理	
20	刺入練習、施灸練習、 変形性膝関節症の治療の実際)	
21	刺入練習、施灸練習、 変形性膝関節症の治療の実際)	
22	刺入練習、施灸練習、 頸椎捻挫後遺症の病態生理	
23	刺入練習、施灸練習、 頸椎捻挫後遺症の治療の実際	
24	スポーツ障害の特性と病態生理	
25	スポーツ障害の治療の実際（肩関節）	
26	スポーツ障害の治療の実際（膝関節）	
27	スポーツ障害の治療の実際（腰痛）	
28	後期試験	
29	症例に対する治療 1	
30	症例に対する治療 2	
31	症例に対する治療 3	

2025年度

授 業 要 項

科 目	はり・きゅう実習 9	学科名	はりきゅう学科	履修年次	3年次
		教授法	実習	単位数コマ	1単位(15コマ)
教 員	深澤 栄一	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	『はりきゅう実技基礎編』・『経絡経穴概論』・『東洋医学概論』 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社				
参考書	特になし				
成績評価	出席・提出物などを総合して判断する。				
評価基準	学則に準じて評価。				
到達目標	患者の治療は勿論のこと、基本的な臨床マナーやカルテ管理が出来るようになる。				
留意点	身だしなみをきちんと整え、極力休まないように体調管理を行うこと。				
授業外に必要な学習内容	はりきゅう基礎実技 はりきゅう応用実技				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院等での勤務経験を踏まえ、実際の患者を対象にEBMの過程を念頭に、主観的・客観的なデータ収集・批判的な吟味・インフォームドコンセント・治療・カルテ記載などの実際の臨床に即した訓練を行う。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	各グループによる学用患者への治療	書画カメラ
2	〃	〃
3	〃	〃
4	〃	〃
5	〃	〃
6	〃	〃
7	〃	〃
8	〃	〃
9	〃	〃
10	〃	〃
11	〃	〃
12	〃	〃
13	〃	〃
14	〃	〃
15	〃	〃

2025年度

授 業 要 項

科 目	はり・きゅう実習 9	学科名	はりきゅう	履修年次	3年次
		教授法	実技	単位数コマ	3単位 (38コマ)
教 員	林 陽 子 ・ 角澤 隆	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書					
参考書					
成績評価	出席・提出物などを総合して判断する。				
評価基準	学則に準じて評価。				
到達目標	患者の治療は勿論のこと、基本的な臨床マナーやカルテ管理が出来るようになる。				
留意点	身だしなみをきちんと整え、極力休まないように体調管理を行うこと。				
授業外に必要な学習内容	1年次・2年次における全ての基礎科目				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院等での勤務経験を踏まえ、実際の患者を対象にEBMの過程を念頭に、主観的・客観的なデータ収集・批判的な吟味・インフォームドコンセント・治療・カルテ記載などの実際の臨床に即した訓練を行う。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション 付属治療院からの説明等	
2	各グループによる学用患者への治療	
3	〃	
4	〃	
5	〃	
6	〃	
7	〃	
8	〃	
9	〃	
10	〃	
11	〃	
12	〃	
13	〃	
14	〃	
15	〃	
16	〃	

17	"	
18	"	
19	"	
20	"	
21	"	
22	"	
23	"	
24	"	
25	"	
26	"	
27	"	
28	"	
29	"	
30	"	
31	"	
32	"	
33	"	
34	"	
35	"	
36	"	
37	"	
38	"	

2025年度

授 業 要 項

科 目	臨床実習 1	学科名	はりきゅう	履修年次	1 年次
		教授法	実習	単位数コマ	1 単位 (23 コマ)
教 員	林 陽子	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	『はりきゅう実技』『はりきゅう理論』等				
参考書	配布資料 *『医療面接』丹澤章八著 『戦略として医療面接術』児玉知之著				
成績評価	科目評価試験、出席等で判断する				
評価基準	学則規定に基づく				
到達目標	2年次、3年次の臨床実習を目標として、診療や鍼灸施術に際しての留意点、医療面接などの基礎知識を学習する				
留意点	全出席を基本とする				
授業外に必要な学習内容	授業内容を復習する 対面した相手に興味を持って会話することを意識する				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、患者さんと施術者が信頼関係を結び、良好な治療効果を得るための基本的な流れを知る。 カルテの記載について知る				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	臨床実習 1 について ガイダンス	
2	問う・聞く 他己紹介	
3	医療者としての身だしなみ、振る舞い（接遇）	
4	医療面接 1 医療面接とは	
5	医療面接 2 医療面接で聴取すること	
6	医療面接 3 医療面接で聴取すること 2	
7	医療面接 4 カルテの記載	
8	医療面接5 医療面接 聴取と記録	
9	医療面接6 医療面接 聴取と記録	
10	医療面接7 医療面接 聴取と記録	
11	医療面接 8 医療面接 入室からベッド上誘導まで	
12	医療面接 9 医療面接 入室からベッド上誘導まで	
13	医療面接 1 0 医療面接 入室からベッド上誘導まで	
14	医療面接 1 1 医療面接 入室からベッド上誘導まで	

15	身体の触れ方 1 皮毛	
16	身体の触れ方 2 筋肉	
17	身体の触れ方 3 筋骨	
18	身体の触れ方 4 ツボを意識して	
19	実技試験 1 (1/4)	
20	実技試験2 (2/4)	
21	実技試験 3 (3/4)	
22	実技試験 4 (4/4)	
23	筆記試験	

2025年度

授 業 要 項

科 目	臨床実習 2	学科名	はりきゅう	履修年次	2 年次
		教授法	実習	単位数コマ	1 単位 (23 コマ)
教 員	西岡 岳之	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	1.「臨床医学総論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株) 2.「臨床医学各論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株)				
参考書	1. 開業鍼灸師のための診察法と治療法1～5;出端昭男著(医道の日本社) 2. 教材・資料プリント配布				
成績評価	出席、授業態度などを総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。				
評価基準	同上				
到達目標	各疾患の病態生理を理解し、安全な施術方針が立案できる。 病態に基づいた取穴を列挙できる。安全な施術(鍼・灸)が実践できる。				
留意点	衛生的で安全な鍼灸施術を身につけるために、問診と身体診察による病態把握に基づいた具体的な治療方法の基礎を修得する。				
授業外に必要な学習内容	整形外科的運動器疾患を施術する上で、体表解剖、経絡経穴概論の腧穴の予習・復習				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ授業を行う。 腰痛、腰下肢痛・頸上肢痛、膝関節痛、膝関節痛及びこれらを引き起こす運動器疾患(スポーツ障害を含む)は、はき臨床において最も高頻度に扱われる病態です。それらに対する安全な鍼灸施術を学習します。				

授業内容

授業内容		使用機材等	
日 程	内 容		
1	授業ガイダンス	刺鍼・施灸の基本確認と衛生的で安全な施術ができる。 バイタルサイン（脈拍・血圧）を検査・評価できる。	鍼灸実技道具・血圧計
2	腰痛・腰下肢痛のアプローチ①	バイタルサイン（脈拍・血圧）を検査・評価できる。 鍼灸適応となる腰痛に対する治療穴の選定ができる。 治療穴を含めた腰痛の触診を的確に行うことができる。 腰痛に対して衛生的で安全な施術を行うことができる。	鍼灸実技道具・血圧計
3	腰痛・腰下肢痛のアプローチ②		鍼灸実技道具・血圧計
4	腰痛・腰下肢痛のアプローチ③		鍼灸実技道具・血圧計
5	腰痛・腰下肢痛のアプローチ④		鍼灸実技道具・血圧計
6	頸上肢痛のアプローチ①	バイタルサイン（脈拍・血圧）を検査・評価できる。 鍼灸適応となる頸上肢痛に対する治療穴の選定ができる。 治療穴を含めた頸上肢痛の触診を的確に行うことができる。 頸上肢痛に対して衛生的で安全な施術を行うことができる。	鍼灸実技道具・血圧計
7	頸上肢痛のアプローチ②		鍼灸実技道具・血圧計
8	頸上肢痛のアプローチ③		鍼灸実技道具・血圧計
9	頸上肢痛のアプローチ④		鍼灸実技道具・血圧計
10	まとめ		鍼灸実技道具・血圧計
11	実技期末試験①		鍼灸実技道具・血圧計
12	実技期末試験フィードバック		鍼灸実技道具・血圧計

13	膝関節痛のアプローチ①	バイタルサイン(脈拍・血圧)を検査・評価できる。 鍼灸適応となる膝関節痛に対する治療穴の選定ができる。 治療穴を含めた膝関節痛の触診を的確に行うことができる。 膝関節痛に対して衛生的で安全な施術を行うことができる。	鍼灸実技道具・血圧計
14	膝関節痛のアプローチ②		鍼灸実技道具・血圧計
15	膝関節痛のアプローチ③		鍼灸実技道具・血圧計
16	膝関節痛のアプローチ④		鍼灸実技道具・血圧計
17	肩関節痛のアプローチ①	バイタルサイン(脈拍・血圧)を検査・評価できる。 鍼灸適応となる肩関節痛に対する治療穴の選定ができる。 治療穴を含めた肩関節痛の触診を的確に行うことができる。 肩関節痛に対して衛生的で安全な施術を行うことができる。	鍼灸実技道具・血圧計
18	肩関節痛のアプローチ②		鍼灸実技道具・血圧計
19	肩関節痛のアプローチ③		鍼灸実技道具・血圧計
20	肩関節痛のアプローチ④		鍼灸実技道具・血圧計
21	まとめ		鍼灸実技道具・血圧計
22	実技期末試験②		鍼灸実技道具・血圧計
23	実技期末試験フィードバック		鍼灸実技道具・血圧計

〈2025年度〉

授 業 要 項

科 目	臨床実習 3	学科名	はりきゅう	履修年次	3 年次
		教授法	実技	単位数コマ	2単位(12コマ)
教 員	児玉 農	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	東洋療法学校協会編：臨床医学各論				
参考書	特になし				
成績評価	提出物などにより総合的に判断する。				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	現代的な身体診察および最も根本的な原因となる病態把握ができ、適したアプローチができるようになる。				
留意点	主訴だけにとらわれることなく人体だけでなく社会性も踏まえ診察を行えるようになる。				
授業外に必要な学習内容	研究論文などを参考にアプローチ方法を考察する。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、現代社会の現状と課題を踏まえて、あん摩マッサーージ指圧師、はり師、きゅう師のはたすべき役割について学ぶ。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	
2	臨床実習	
3	臨床実習	
4	臨床実習	
5	臨床実習	
6	臨床実習	
7	臨床実習	
8	臨床実習	
9	臨床実習	
10	臨床実習	
11	臨床実習	
12	臨床実習	

2025年度

授 業 要 項

科 目	臨床実習 3（選択美容）	学科名	はりきゅう	履修年次	3 年次
		教授法	実習	単位数コマ	2 単位 (12 コマ)
教 員	奥田 望	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	特になし				
参考書	『新しい美容鍼灸美身鍼』フレグランスジャーナル社 など。				
成績評価	学則規定に基づく。				
評価基準	出欠席、提出物などの総合評価とし、学則に定める試験評価に準ずる。				
到達目標	患者への治療を出迎えから見送りまで1人で出来るようになる。				
留意点	基本的に休みは認めない。十分体調に留意すること。				
授業外に必要な学習内容	全身治療を含めた刺鍼練習を行うこと。 医療面接、患者誘導などの練習をしっかりと行うこと。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、鍼灸治療に必要とされる基礎や応用力をしっかりと身につけさせる。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション リスク管理	
2	リスク管理 刺鍼練習	
3	リスク管理 刺鍼練習	
4	美容鍼灸に必要な術式 刺鍼練習	
5	刺鍼練習	
6	臨床実習	
7	臨床実習	
8	臨床実習	
9	臨床実習	
10	臨床実習	
11	臨床実習	
12	臨床実習	

〈2025年度〉

授 業 要 項

科 目	臨床実習 3（中医学的臨床実習）	学科名	はりきゅう	履修年次	3年次
		教授法	実技	単位数コマ	2単位（12コマ）
教 員	角澤 隆	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書					
参考書					
成績評価	出席・提出物などを総合して判断する。				
評価基準	学則に準じて評価。				
到達目標	患者の治療は勿論のこと、基本的な臨床マナーや中医学的弁証法が理解出来るようになる。				
留意点	身だしなみをきちんと整え、極力休まないように体調管理を行うこと。				
授業外に必要な学習内容	2年生までの臨床実習の内容をふまえて、解剖学・経絡経穴、臨床医学総論・各論の知識、基本的な鍼灸技術、検査技術を要する。放課後等の時間を使い、日々臨床に携わる者としての実践練習に励むこと。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、2年次に履修した補瀉手技方法を駆使して各症例に対する弁証 トレーニングを行い、臨床に即した実践方法を学ぶ。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション 補瀉手技の復習	書画カメラ
2	症例 1	〃
3	症例 2	〃
4	症例 3	〃
5	症例 4	〃
6	症例 5	〃
7	症例 6	〃
8	症例 7	〃
9	耳鍼療法（皮内鍼法）	〃
10	台湾式足裏反射療法	〃
11	〃	〃
12	まとめ	〃

2025年度

授 業 要 項

科 目	臨床実習 3（伝統）	学科名	はりきゅう	履修年次	3 年次
		教授法	実習	単位数コマ	2 単位 (12 コマ)
教 員	小林郁代	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	総合学習2の教科書に加え、衛生学・公衆衛生学、リハビリテーション医学、医療概論、東洋医学臨床論、社会あはき学など				
参考書	鍼灸医療安全ガイドライン、鍼灸学基礎編、機能解剖的触診技術、鍼通電療法テクニックなど				
成績評価	出席、提出物などを総合して評価する。				
評価基準	出席、提出物など総合し、学校の定める成績評価に準ずる。				
到達目標	西洋医学と東洋医学における人体の機能・構造を理解し、鍼灸治療における実践的な技術を習得する。				
留意点	授業内容によって教室や実技室などを使用する。進捗状況によって内容の変更することもある。				
授業外に必要な学習内容	コミュニケーション能力を高めよう。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習を行う。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	
2	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習を行う。	
3	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習を行う。	
4	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習を行う。	
5	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習を行う。	
6	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習を行う。	
7	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習を行う。	
8	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習を行う。	
9	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習を行う。	
10	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習を行う。	
11	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習を行う。	
12	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習を行う。	

2025年度

授 業 要 項

科 目	総合学習 1	学科名	はりきゅう	履修年次	1 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位 (38 コマ)
教 員	林 陽子・奥田 望・角澤 隆 古川 清裕・星 伴路・竹内 健	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	解剖学、生理学、関係法規、東洋医学概論、はりきゅう理論、経絡経穴概論、はりきゅう実技など				
参考書	鍼灸医療安全ガイドライン、鍼灸学基礎編、機能解剖的触診技術、基本としくみがよくわかる東洋医学の教科書など				
成績評価	出席、試験、提出物などを総合して評価する。				
評価基準	出席、試験、提出物など総合し、学校の定める成績評価に準ずる。				
到達目標	西洋医学と東洋医学における人体の機能・構造を理解し、鍼灸治療における臨床的な技術を習得する。				
留意点	授業内容によって教室や実技室などを使用する。進捗状況によって内容の変更することもある。				
授業外に必要な学習内容	コミュニケーション能力を高めよう。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院等で勤務経験を踏まえ、今まで学習した内容を含め、総合的に学習する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	
2	オリエンテーション	
3	チームワーク研修など	
4	チームワーク研修など	
5	チームワーク研修など	
6	チームワーク研修など	
7	総合学力判定試験	
8	総合学力判定試験	
9	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
10	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
11	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
12	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
13	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
14	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
15	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
16	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	

17	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
18	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
19	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
20	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
21	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
22	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
23	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
24	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
25	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
26	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
27	総合学力判定試験	
28	総合学力判定試験	
29	チームワーク研修など	
30	チームワーク研修など	
31	チームワーク研修など	
32	チームワーク研修など	
33	チームワーク研修など	
34	チームワーク研修など	
35	チームワーク研修など	
36	チームワーク研修など	
37	卒業見込み判定実技試験の見学など	
38	卒業見込み判定実技試験の見学など	

2025年度

授 業 要 項

科 目	総合学習 2	学科名	はりきゅう	履修年次	2 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位 (38 コマ)
教 員	林 陽子・奥田 望・角澤 隆 古川 清裕・星 伴路・竹内 健	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	総合学習1の教科書に加え、病理学概論、臨床医学総論、臨床医学各論など				
参考書	鍼灸医療安全ガイドライン、鍼灸学基礎編、機能解剖的触診技術、鍼通電療法テクニックなど				
成績評価	出席、試験、提出物などを総合して評価する。				
評価基準	出席、試験、提出物など総合し、学校の定める成績評価に準ずる。				
到達目標	西洋医学と東洋医学における人体の機能・構造を理解し、鍼灸治療における臨床的な技術を習得する。				
留意点	授業内容によって教室や実技室などを使用する。進捗状況によって内容の変更することもある。				
授業外に必要な学習内容	コミュニケーション能力を高めよう。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院等での勤務経験を踏まえ、今まで学習した内容を含め、総合的に学習する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	総合学力判定試験	
2	総合学力判定試験	
3	チームワーク研修など	
4	チームワーク研修など	
5	チームワーク研修など	
6	チームワーク研修など	
7	総合学力判定試験	
8	総合学力判定試験	
9	総合学力判定試験	
10	総合学力判定試験	
11	チームワーク研修など	
12	チームワーク研修など	
13	チームワーク研修など	
14	チームワーク研修など	

15	チームワーク研修など	
16	チームワーク研修など	
17	チームワーク研修など	
18	チームワーク研修など	
19	卒業見込み判定実技試験の模擬患者など	
20	卒業見込み判定実技試験の模擬患者など	
21	卒業見込み判定実技試験の模擬患者など	
22	卒業見込み判定実技試験の模擬患者など	
23	卒業見込み判定実技試験の模擬患者など	
24	卒業見込み判定実技試験の模擬患者など	
25	総合学習1の内容に加え、病理学、臨床医学総論、臨床医学各論など	
26	総合学習1の内容に加え、病理学、臨床医学総論、臨床医学各論など	
27	総合学力判定試験	
28	総合学力判定試験	
29	総合学力判定試験	
30	総合学力判定試験	
31	総合学習 1 の内容に加え、病理学、臨床医学総論、臨床医学各論など	
32	総合学習1の内容に加え、病理学、臨床医学総論、臨床医学各論など	
33	総合学習1の内容に加え、病理学、臨床医学総論、臨床医学各論など	
34	総合学習1の内容に加え、病理学、臨床医学総論、臨床医学各論など	
35	総合学習1の内容に加え、病理学、臨床医学総論、臨床医学各論など	
36	総合学習1の内容に加え、病理学、臨床医学総論、臨床医学各論など	
37	総合学習1の内容に加え、病理学、臨床医学総論、臨床医学各論など	
38	総合学習1の内容に加え、病理学、臨床医学総論、臨床医学各論など	

2025年度

授 業 要 項

科 目	総合学習 3	学科名	はりきゅう	履修年次	3 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位 (38 コマ)
教 員	林 陽子・奥田 望・角澤 隆 古川 清裕・星 伴路・竹内 健	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	総合学習2の教科書に加え、衛生学・公衆衛生学、リハビリテーション医学、医療概論、東洋医学臨床論、社会あはき学など				
参考書	鍼灸医療安全ガイドライン、鍼灸学基礎編、機能解剖的触診技術、鍼通電療法テクニックなど				
成績評価	出席、提出物などを総合して評価する。				
評価基準	出席、提出物など総合し、学校の定める成績評価に準ずる。				
到達目標	西洋医学と東洋医学における人体の機能・構造を理解し、鍼灸治療における臨床的な技術を習得する。				
留意点	授業内容によって教室や実技室などを使用する。進捗状況によって内容の変更することもある。				
授業外に必要な学習内容	コミュニケーション能力を高めよう。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院等での勤務経験を踏まえ、今まで学習した内容を含め、総合的に学習する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	
2	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
3	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
4	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
5	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
6	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
7	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
8	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
9	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
10	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
11	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
12	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
13	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
14	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
15	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	

[illegible]

2025年度

授 業 要 項

科 目	総合学習 4	学科名	はりきゅう	履修年次	3 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位 (38 コマ)
教 員	林 陽子・奥田 望・角澤 隆 古川 清裕・星 伴路・竹内 健	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	総合学習2の教科書に加え、衛生学・公衆衛生学、リハビリテーション医学、医療概論、東洋医学臨床論、社会あはき学など				
参考書	鍼灸医療安全ガイドライン、鍼灸学基礎編、機能解剖的触診技術、鍼通電療法テクニックなど				
成績評価	出席、試験、提出物などを総合して評価する。				
評価基準	出席、試験、提出物など総合し、学校の定める成績評価に準ずる。				
到達目標	西洋医学と東洋医学における人体の機能・構造を理解し、鍼灸治療における臨牀的な技術を習得する。				
留意点	授業内容によって教室や実技室などを使用する。進捗状況によって内容の変更することもある。				
授業外に必要な学習内容	コミュニケーション能力を高めよう。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院等での勤務経験を踏まえ、今まで学習した内容を含め、総合的に学習する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	総合学力判定試験	
2	総合学力判定試験	
3	チームワーク研修など	
4	チームワーク研修など	
5	チームワーク研修など	
6	チームワーク研修など	
7	総合学力判定試験	
8	総合学力判定試験	
9	総合学力判定試験	
10	総合学力判定試験	
11	総合学力判定試験	
12	総合学力判定試験	
13	総合学力判定試験	
14	総合学力判定試験	

15	総合学習 2 の内容に加え、東洋医学臨床論、社会あはき学など	
16	総合学習 2 の内容に加え、東洋医学臨床論、社会あはき学など	
17	総合学習 2 の内容に加え、東洋医学臨床論、社会あはき学など	
18	総合学習 2 の内容に加え、東洋医学臨床論、社会あはき学など	
19	卒業見込み判定試験	
20	卒業見込み判定試験	
21	卒業見込み判定試験	
22	卒業見込み判定試験	
23	卒業見込み判定実技試験	
24	卒業見込み判定実技試験	
25	卒業見込み判定実技試験	
26	卒業見込み判定実技試験	
27	卒業見込み判定実技試験	
28	卒業見込み判定実技試験	
29	卒業見込み判定実技試験	
30	卒業見込み判定実技試験	
31	卒業見込み判定実技試験	
32	卒業見込み判定実技試験	
33	総合学習 2 の内容に加え、東洋医学臨床論、社会あはき学など	
34	総合学習 2 の内容に加え、東洋医学臨床論、社会あはき学など	
35	総合学習 2 の内容に加え、東洋医学臨床論、社会あはき学など	
36	総合学習 2 の内容に加え、東洋医学臨床論、社会あはき学など	
37	総合学習 2 の内容に加え、東洋医学臨床論、社会あはき学など	
38	国試対策模擬試験	